文部科学省

ー多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランー

《京都大学拠点》

高度がん医療を先導するがん医療人養成
外部評価報告書(平成29年度)

京都大学
三重大学
滋賀医科大学
大阪医科大学
京都薬科大学

〈京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学連携〉

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科　教授

武　藤　　学

ごあいさつ

現在のわが国は、世界に類を見ない超高齢社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつあります。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出され、新しい医療の提供が様々な分野で行われるようになっています。わが国が今後も健全な社会を維持するためには、国民の健康長寿は必須であり、安心して暮らせるようにしなければなりません。なかでも、わが国の死因の第一位である「がん」の医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新しいニーズに対応できる医療人の育成が求められています。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、ひとりひとりのがん患者に、より精密な医療を提供するプレシジョンメディシンを実現する「がんゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指します。

具体的には、がんゲノム医療では、がん組織におけるゲノム変化を理解し治療に結びつけるがん薬物療法専門医の育成に加え、家族性腫瘍などのゲノム情報にも対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行います。希少がん、小児がんにおいては、これまで原因が不明だった病態の解明と病態に基づいた新規医療開発ができる研究者と医療人を育成します。さらに、現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージと新しいニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきています。例えば、高齢者に対するがん医療のあり方、腎障害や肝障害などの合併症をもつがん患者への治療、からだに優しい低侵襲な治療開発などが大きな課題になっています。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材は不足しており、その育成は喫緊の課題であります。さらに、がんと診断された時から心身のケアを含む緩和医療を担える人材を育成する必要があります。

私達は、このようながんの専門的教育を実践することによって、幅広い領域の医療人の育成とがん医療の発展に貢献し、健康な社会つくりの一躍を担いたいと考えています。

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科　教授

溝　脇　尚　志

本教育プログラムの主眼は、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成であります。京都大学におきましては、前２期のがんプロフェッショナル養成プログラムにおいて築いてまいりました基盤の上に本教育プログラムを整備することにより、幅広く高度な臨床能力を身につけ先導的にがん研究を推進できる医療人の養成を行います。また、ゲノム医療、ロボット手術や高精度放射線治療などの最先端医療に加えて、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラー、がんの診断時から緩和医療を担える人材等、幅広い医療人を養成するために、９つのコースを開設いたしております。本プログラムの実施におきましては、連携５大学との交流を通して、本学のプログラムが対応しきれていない内容についても相補的に学べる環境を提供いたします。また、海外の先端的施設における研修の機会も設けております。

本教育プログラムによって、我が国の将来の医療を中核となって担える人材を養成していきたいと考えております。

三重大学コーディネーター

がんセンター長

中　瀬　一　則

三重大学では、第３期のがんプロである「がん専門職医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの大学院の教育コースとして、従来までの腫瘍内科専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん専門薬剤師、がん看護専門看護師の養成コースに加えて、新たに、小児がん専門医の養成コースを開設しました。三重大学医学部附属病院は小児がん拠点病院に指定されていますので、小児がんのすべてに対応した研修が可能となっています。これらの大学院コースでは、がん研究による学位の取得とともに、がん専門職の資格取得を目指した指導教育を行い、優れたリサーチマインドを持ち、ライフステージやゲノム情報に応じた個別化医療を適切に実施できる高度がん医療人の育成を進める予定です。また、インテンシブコースにおいても、ゲノム医療を推進できる医師養成コース、ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供する医師養成コース、ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる多職種人材養成コース、地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コースを開設して、講演会、セミナー形式による研修を行うことにより、地域におけるがん医療の総合的な向上を目指します。

滋賀医科大学コーディネーター

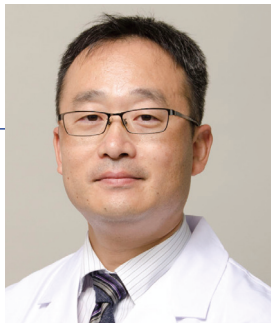
臨床腫瘍学講座　教授

醍　醐　弥太郎

滋賀医科大学大学院医学系研究科・医学専攻では、多彩な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランにおいて、過去 10 年間のがんプロフェッショナル養成事業の実績と最新の社会的ニーズを踏まえ、先進的がん医療開発、がんゲノム医療、ライフステージに応じたがん集学的治療（薬物療法、外科療法、放射線療法、緩和ケア、支持療法）、小児がん治療に精通した医療人材を養成することを目的とした４つのがん専門医療人コースと３つのインテンシブコースを新たに設けました。

いずれのコースにおいても最先端の基礎・臨床腫瘍学とその学際領域を教育するとともに、がんの基礎研究からトランスレーショナルリサーチにつながる研究手法の指導と先進医療制度や医師主導治験等を通じたがん先進医療開発の On the Job Training（OJT）を行い、標準治療から先進的医療、創薬研究までを推進して包括的・全人的がん医療を指導的立場で実践できる専門医療人材を養成します。また、行政、地域医療機関、国内外の卓越した大学院・研究機関・がん専門病院群とのネットワークや本学の特色ある教育・研究基盤を活用し、地域と世界で活躍する人材を輩出して医療、福祉の発展に貢献することを目指します。

大阪医科大学コーディネーター



化学療法センター長

後　藤　昌　弘

大阪医科大学では平成 19 年度から実施された「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」プログラム、さらに平成 24 年度からの「次代を担うがん研究者・医療人養成」プログラムで化学療法専門医、放射線治療医、がん手術療法専門医養成コースを設置し成果を上げてきました。今回の「高度がん医療を先導するがん医療人養成」プログラムでは、それぞれの専門医育成プログラムをさらに発展させることを目的に「ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース 」、「希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース」、「婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース」の３つの新コースを設立しました。それぞれのコースでの養成分野は「ライフステージ」、「希少がん」、「ゲノム」と異なりますが、いずれもがん専門医療人の育成には欠くことのできない分野です。それぞれの領域における学位の取得とともに、領域横断的な講演会・研修会参加の機会を積極的に提供し、新たなニーズに柔軟に対応できる優れた人材を育成するとともに、国内外での短期研修・発表の機会を通して視野の広い医療人の育成を目指します。

京都薬科大学コーディネーター

生命薬科学系　病態生理学分野　教授

芦　原　英　司

京都薬科大学では、薬学の未来を拓く“Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた薬剤師”の育成を目指した６年制薬学教育を推進するとともに、学部教育に連動する大学院博士課程では、医療現場、企業、行政といったあらゆる医療現場においてリーダーとなる博士号を有した薬剤師を育成することを目的に教育を進めております。

本学は、「ライフステージに応じた個別化がん治療において全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース」を設けました。大学附属病院および基幹病院での連携プログラム、在宅支援診療所との連携プログラムの２つの教育プログラムを企画し、がん薬物療法の高度な専門知識と基礎的または臨床的薬学研究能力を有し、テーラーメイド医療を実践できる薬剤師の養成、および地域包括ケアシステムにおけるがん薬物治療の指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療を提供できる薬剤師の養成を主眼として、進めていきます。さらに、がん専門薬剤師（指導薬剤師）を目指す大学院生や薬剤師を対象としたキャリアパスセミナーを開催し、がん医療チームの一員として、『現場で科学する』薬剤師の養成を目指します。

文部科学省

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

《高度がん医療を先導するがん医療人養成》

外部評価報告書

（平成29年度）

京都大学

三重大学

滋賀医科大学

大阪医科大学

京都薬科大学

文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

「外部評価報告書（平成29年度）」

1. 外部評価実施方針について

・外部評価は、評価委員による書面評価とする。

・評価委員については、３名の委員を選任する。

・評価項目については、「申請書」（H29年7月提出）に記載した達成目標・評価指標の分析評価をするため、「事業評価ガイドライン」（H24.3.29 がんプロ養成推進委員会）を基本として評価指標の適切性や達成状況などの、事業の実施状況を把握するため独自の評価項目をする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3 ～

3.「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業取組の実績」、
「事業取組の成果」、「事業の概念図」、 5 ～
「各大学の教育プログラム・コース」

4.「平成29年度　取組状況等」

「平成29年度　取組状況等」 10 ～

資料　1　「受入目標人数・入学者数・在学者数」 41 ～
資料　2　「資格取得者数一覧」 42 ～
資料　3　「がんプロ履修生調査（要望・改善点）」 43 ～
資料　4　「がんに特化した講座の設置状況」 46 ～
資料　5　「セミナー・シンポジウム等の開催状況」 47 ～
資料　6　「インテンシブコース実施事業」 49 ～
資料　7　「医療チームの整備体制」 51 ～
資料　8　「キャンサーボードの体制」 53 ～
資料　9　「プロトコル作成への関与状況」 57 ～
資料　10　「国際学会・英文誌への発表一覧」 59 ～
資料　11　「国内学会・雑誌への発表一覧」 65 ～
資料　12　「海外学会・シンポジウム等参加状況」 75 ～
資料　13　「国内学会・シンポジウム等参加状況」 77 ～
資料　14　「海外合同教育セミナー」 84 ～

5. 評価について

「評価結果表」　90 ～
「講　評」　91 ～

6. 外部評価委員について

がん・感染症センター　都立駒込病院　放射線診療科（治療部）　唐澤克之　部長
名古屋大学　医学部附属病院　化学療法部　安藤雄一　部長・教授
川崎医科大学　総合医療センター　猶本良夫　病院長・特任教授

7. 評価実施日程について

平成３０年 ８月６日 ～ 平成３０年 ８月２４日

外 部 評 価 項 目

【教育プログラムコース】

1 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み

2 がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか

3 コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか

4 がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況

5 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数

6 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数

7 多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数

8 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績

9 コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等

10 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

11 コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数

12 コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数

13 コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数

14 コース履修者の国際学会等への参加者数

15 コース履修者が国内学会等への参加者数

【シンポジウムやセミナー等の実施】

16 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数

17 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）

18 インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】

19 コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み

20 国際交流プログラムの実施数

21 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

22 がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数

23 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況

24 がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況

25 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

【事業の運営体制（実施、評価、連携）】

26 連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制

27 外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか

28 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況

29 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数

30 連携5大学　コース履修者の ｅ－learning 受講登録率

31 新たな ｅ－learning　講義科目の提供の取組みについて

32 主幹大学での事業支援事務組織体制

【事業の普及】

33 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか

34 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて

35 ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み

36 テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み

37 がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み

38 がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況

39 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

連携する大学

京都大学、 三重大学、 滋賀医科大学、 大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

我が国は世界に類を見ない超高齢社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつある。一方、科学技術の進歩も目覚ましく、医療の分野でも新技術が次々生み出されている。我が国が今後も健全な社会を維持するためにも国民の健康長寿は必須であり、中でも我が国の死因の第一位であるがん医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新ニーズに対応できる医療人の育成が求められている。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学の５大学が連携し、各大学の特色を活かした教育プログラムを構築することにより、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる高度がん医療を先導する医療人の育成を目指す。

ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を担う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。

平成 29 年度　事業取組の実績

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを開設した。がんプロ履修者受入実績は 26 名であり、年度中途からの開設のため大学によっては受入目標人数を下回ったが、概ね受入目標人数と同等のがんプロ履修

者は確保した。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、５大学が連携し、各大学の特色を活かした多様な教育プログラムを構築するため、人材交流、多職種交流、国際交流を推進する事業を実施した。

国際交流・人材交流プログラムでは、米国テキサス州立ＭＤアンダーソンがんセンターにおいて、英語による研究成果発表、ディスカッションの場となる「５大学連携合同教育セミナーin MDACC」を企画し、５人が参加した。さらに、履修者自らが国際学会等に参加し、その場での研究成果発表する機会を提供した。

人材交流プログラムでは、連携５大学での医療フォーラム（参加人数５８人)、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点の近畿３拠点合同フォーラム（参加人数５８人）等を開催し、連携大学・他拠点間の交流を実施した。また、地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、高精度放射線ワークショップ、三島圏域がん研究会等の地域医療機関・団体と連携した人材交流・多職種交流プログラムを実施した。さらに、がん相談支援センター等から、がん患者や家族の視点からの意見を取り入れ、教育内容に反映するシステムを実施した。

専用ホームページにより、広報活動の実施、地域医療貢献のための各種フォーラムや公開講座等の開催情報を積極的に公開した。

これらの取組事業全体を統括する５大学連携「事業推進運営委員会」を２回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、本事業の円滑な推進に取り組んだ。

平成 29 年度　事業取組の成果

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを開設し、26 名のがんプロ履修者の受け入れを実施した。

開設した教育プログラムコースは、各大学の特色を生かしてゲノム医療や小児・ＡＹＡ世代・希少がんの医療や研究を担う人材養成、リハビリテーションを含む支持療法や緩和ケアに関わる教育など多様なコースを設定した。各大学が長年積み重ねてきた教育インフラを基に、ゲノム医療の臨床実装、希少がんと小児がん、さまざまな社会環境における医療や多岐にわたる依存症への取組等、多分野にまたがる総合的な医療を意識して、各領域においてバランスを踏まえ、また、遺伝性腫瘍、AYA がんなど複数臓器、長期間のフォローアップが必要な課題に対して、診療科・職種横断的な人材育成が可能な教育プログラムコースを提供することができた。これにより、履修する学生には、幅広い領域からがんプ

ロフェッショナルとしての教育を教授することができた。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、５大学が連携して人材交流、多職種交流、国際交流を行う中で、各大学の特色を生かした多様な教育プログラムを構築することができた。

国際交流・人材交流プログラムでは、米国テキサス州立ＭＤアンダーソンがんセンターにおいて「５大学連携合同教育セミナーin MDACC」を実施し、がんプロ履修生自身がMDACC の研究者を前にして研究成果を発表し、その研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供することで、本事業の促進が図られた。さらに、履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生に対して経費支援を行い、学修研究意欲の向上を図った。

人材交流プログラムでは、連携５大学での医療フォーラム、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点の近畿３拠点合同フォーラム等を開催することで、連携大学・他拠点間の交流を実施することができた。　地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、高精度放射線ワークショップ、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。さらに、他拠点が開催するシンポジウムであるが、本拠点の履修生による研究成果発表の推薦を行い、他拠点との人材交流を行った。また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。

専用ホームページでは、サイトデザインを刷新し、広報活動の実施、地域医療貢献のための各種フォーラムや公開講座等の開催情報を逐次更新し、履修者及び社会から、拠点としてがんプロ活動の理解を得ることができた。掲載情報は京大拠点だけでなく、他拠点との府民公開講座や近畿地区５拠点とのフォーラムも掲載し、他拠点交流や多職種交流教育を図ることができた。

これらの取組事業全体を統括する５大学連携「事業推進運営委員会」を２回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、がん教育プログラム事業の円滑な推進を図ることができた。

高度がん医療を先導するがん医療人養成プログラム

多様なニーズに対応できるがん専門医療人の輩出と教育プログラムの確立

（医師、薬剤師、看護師、医学物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなど）

各大学の教育プログラム・コース

コ ー ス 名	養成する専門分野
京都大学	
プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	ゲノム
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	希少がん・小児がん
希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	ライフステージ
がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	ライフステージ
ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	ライフステージ
がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	ゲノム
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	ゲノム
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	ゲノム
三重大学	
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児がん治療専門医養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	ライフステージ
ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	ライフステージ
地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	ライフステージ
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	その他
滋賀医科大学	
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	ゲノム
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた集学的医療における放射線治療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
大阪医科大学	
婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	ライフステージ
京都薬科大学	
ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ

平成29年度　取組状況等

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【教育プログラムコース】				
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	事業期間中（5年間）　達成目標 （ゲノム医療従事者の養成）　40人 （希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成）　40人 （ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成）　97人 合計　177人　を受入目標人数とする。 29年度取組状況 拠点全体における　29年度入学目標人数 35人 に対して、入学実績人数は 26人 であり、年度中途からの開設のため大学によっては受入目標人数を下回った。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 29年度は、4/7の新入生オリエンテーションにおいて、旧コース（次代を担うがん研究者・医療人養成プラン）でのがん教育の重要性を説明のうえ、履修生の獲得に努め、9/26に新コース（高度がん医療を先導するがん医療人養成）での多様な新ニーズに対する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成する取組を説明した。これにより、受入目標人数19名に対して入学実績人数19名で、年度中途からのコース開設であるが、受入目標を達成した。 三重大学： 平成29年度については、充足率を満たすために、大学院HPでの案内、近隣の大学へのパンフレット郵送、緩和医療関連学会でのPR、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースについての紹介を行い、小児がん治療専門医養成コースに1名、放射線腫瘍医養成コースに1名、看護師養成コースには2名が入学した。 滋賀医科大学： 29年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。 大阪医科大学： 各コースとして入学者1名、大学全体として入学者3名を充足するため、ホームページや入試要項などで広報活動を実施し、婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース1名 、ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース1名の入学者を迎えたが、希少がんに関する放射線治療を担う人材育成コースは入学者なしであった。なお、今後も充足するための広報活動等を実施する。 京都薬科大学： 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意義、「臨床腫瘍薬学」の重要性、ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース（がんプロコース）等の説明を行い、大学院進学を促進している。	（資料1） 受入目標人数、入学者数・在学者人数
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	事業期間中（5年間）　達成目標 専門医資格取得者数 100名を目標とする。 29年度取組状況 拠点全体として、30名の専門医の資格を取得した。 各大学における29年度取組状況	（資料2） 資格取得者数一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都大学： 29年度新規事業として、前期がんプロ事業（H24～28年度）と同様に、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） がん薬物療法専門医取得または更新の単位となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。 その他、Best of ASCOや癌治療学会など、がん薬物療法の知識取得に役立つセミナーなどに派遣した。 がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の薬物療法が学会認定の指導医のもとで研修出来るプログラムを継続して施行している。 また受験のために必須となる病歴要約も専門医の指導教官が添削・指導している。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） コース参加の大学院生には婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。 さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。 毎年コース修了生が婦人科腫瘍専門医を取得している。 （放射線治療医・医学物理士コース） 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会（放射線治療科モーニングレクチャー）を行い、放射線治療専門医試験・医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会など国内外の放射線治療関係の学会だけでなく、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本肺癌学会、日本泌尿器腫瘍学会、ASCO消化器癌シンポジウム、ASCO泌尿器癌シンポジウムなど、各臓器別のがん治療の知識取得に役立つ学会での発表の機会を設けた。 また、放射線治療専門医資格取得・医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。 （外科治療・集学的診療コース） 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。 （がん専門薬剤師養成コース） 日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。 また、セミナーや症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得する機会を定期的に設けている。 （緩和ケアコース） コース参加の大学院生を対象に「身体症状のアセスメントとマネジメント」、「精神症状のアセスメントとマネジメント」、「緩和ケアにおける学祭的アプローチ」に関する講義を系統的に行った。関連学会への参加・発表や論文執筆の支援を行った。また、緩和ケアの知識取得に役立つ教育セミナーや研修会への参加を積極的に支援した。 三重大学： 各コースのコーディネーターが責任を持って、研修カリキュラムに従った、コース履修者の指導・教育を行っており、受験に必要な各領域の受け持ち患者数が確保できるように、適切な患者の割り当てを行っている。 また、専門医取得のための学会主催の教育セミナーに参加するための支援を積極的に行っている。 さらに、大学内で開催する専門医取得に有用ながん治療セミナーは、がんプロ推奨セミナーとして、大学院の単位取得の対象セミナーとして認定している。 看護師養成コースでは、三重専門看護師会と共同した勉強会に大学院生も参加し現役専門看護師とともに学ぶ機会を設けている。 滋賀医科大学： 履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス（入学前・在学中・修了後）を掲載している。また、29年度においては、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを12回開催した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 専門知識向上に向けて、がんセンター主催で外部講師を招いて年数回講演会を行い、取得への支援を行っている。 京都薬科大学： 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。資格取得条件である「一般社団法人　日本医療薬学会」（5年間の入会が必要）への入会を促しており、在籍者2名中1名が当該学会に入会している。	
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	29年度取組状況 京都大学： 29年度新規事業として、前期がんプロ事業（H24～28年度）と同様に、コース履修者の満足度を満たす取り組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行い、調査結果をホームページにおいて公表し、また、質問・改善要望についても、その回答を同じく公表することとした。 （がんプロ事業の継続を望むとの回答が多く寄せられている。） （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） 希望に添った研究テーマ、研究発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。 （医学物理士コース） 履修者の希望に添った研究テーマを設定し、研究発表機会の提供した。放射線腫瘍医コースと連携し、講座内での定期的な進捗報告会の開催し、教員らのコメントをフィードバックした。 （外科治療・集学的診療コース） 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。 （リハビリテーションスタッフコース） 履修者と指導教員による「がんリハビリテーションセミナー」を定期的に開催 （がん専門薬剤師養成コース） 現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、がんプロ大学院生１人１人にリバース・トランスレーショナルリサーチを目指した研究テーマを持たせ、そうした活動を通して医師および薬剤師と積極的に討議する機会を設けている。学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。さらにまた、知識や技能の習得および問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。 （緩和ケアコース） 定期的にミーティングを行い、情報交換、研究計画の進行状況の確認・支援を行っている。 三重大学： 他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるtumor boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会やセミナーをがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行っている。 また、看護コースの講義では、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開している。	（資料3） がんプロ履修生調査 （要望・改善点）

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 大阪医科大学： 各コースカンファレンスや症例検討会において、履修生に対して個別で指導行っている。 京都薬科大学： 教育研究環境整備に努めるほか、学長をはじめ、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的に実施している。月１回程度	
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	29年度取組状況 京都大学、三重大学、滋賀医科大学では、平成24年度にがんに特化した講座を設置しており、活発な教育・研究を行っている。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 平成24年9月に当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座（分野）」を設置、がんプロ経費にて平成24年12月より新規助教を採用する。本講座は、アカデミアにおけるがんセンターの機能的運用の支援を行うとともに 1）専門的かつ先進的ながん診療の実践と教育 2）治験・臨床試験などの臨床開発の実践と教育 3）がんに関連する基礎研究 4）基礎研究を臨床に応用するTranslational　Oncology 5）次世代の医療開発に繋げるキャンサーバイオバンクおよびがんクリニカルシークエンス事業 等を展開し、専門的な教育を推進している。 三重大学： 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍医養成コースにはこれまで5名の入学があるが、平成29年度は新たに1名が入学した。 附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。 滋賀医科大学： ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。	（資料4） がんに特化した講座の設置状況
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	29年度取組状況 教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「がんチーム医療研修」、「高精度放射線治療研修」、「専門薬剤師研修」を開催している。 上記以外にも各コース毎に、週１回程度の合同カンファレンスを行い、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都大学: 29年度新規事業として、前期がんプロ事業（H24～28年度）と同様に、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 全国がんプロのFDのため合同フォーラムへがんプロ教員が参加した。 がん薬物療法専門医更新・指導医申請予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・学生発表のサポートを行った。 また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。 国際的視野をもつ教員を育成するため、国際交流プログラムにおいて大学院生とともに海外合同教育セミナー（H29年度は米国MDACCとの合同教育セミナー3月12-13日）に同行し、研究発表ならびに専門領域のカンファレンスに参加した。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） ①毎週の病理カンファレンス（婦人科腫瘍医と病理医、20名参加）、 ②毎週の画像カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加）、 ③毎週の放射線治療カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加）を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。 （放射線治療コース） スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファンレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画 具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本肺癌学会、日本泌尿器腫瘍学会、ASCO消化器癌シンポジウム、ASCO泌尿器癌シンポジウムなどにおいて、大学院生に同行し、研究発表ならびに専門領域のカンファレンスに参加した。 （医学物理士コース） ①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週2日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会への参加のサポートを行った。 日本医学物理学会：2名 欧州放射線腫瘍学会：2名 日本放射線腫瘍学会：2名 （リハビリテーションコース） 「がんリハビリテーション特別講演会」を開催（平成30年1月27日、参加43人） 「関西がんのリハビリテーション研究会」を共催（平成29年9月2日、参加78人） （がん専門薬剤師養成コース） 指導教員は指導能力向上のために講演会（ex. 11月22日京都ロイヤルホテル＆スパ：参加者74名、2月17日京都大学薬学部記念講堂：参加者81名など）に積極的に参加し、FDに取り組んでいる。 また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての最新知見の習得を目的として、国際学会などに参加して情報交換を行うことを支援している（2017.11.10-15 SfN2017@USA、2018.9.12-16 IASP@USA）。さらに、勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（緩和ケアコース） 指導教員は、指導能力向上のために緩和ケア関連の日本緩和医療学会・京都大学緩和医療研究会・緩和ケア指導者研修会などに積極的に参加し、FDに取り組んでいる。最新の情報を収集するため、平成30年3月14-16日に米国緩和ケア学会に教員2名を派遣した。 三重大学： 医師コースでは、病院全体のtumor board(月1回)、骨転移合同カンファランス(月1回)のほかに、緩和ケアセミナー（年3回）、緩和ケアフォローアップ研修会（年1回）、早期からの緩和ケアを考える会（年1回）、がんチーム医療研究会（年1回）、三重がん放射線治療研究会（年1回）、医科歯科連携人材養成研修会（年2回）などの診療科横断的なセミナー、研修会を定期的に開催するとともに、各がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファランスやがん医療に関するセミナー、講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んでいる。 看護コースでは、大学院FDとして、Moodleを活用したアクティブラーニングについて、8月・3月と2回シリーズでのワークショップを行った。教員の参加率は1回目83%、2回目70%と高く、教育力の強化の取り組みとして有効であった。 大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、2名の教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が歓談する「研究交流会」を行っており、今年度は9月14日に開催し40名が出席した。 滋賀医科大学： 各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会　1回（10月7日/32名） ・病診連携フォーラム　1回（11月12日/48名） ・家族性腫瘍遺伝カンファレンス　3回（1月16日/11名・2月20日/9名・3月6日/14名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀　1回（8月24日/40名） ・腫瘍センター講演会　3回（7月19日/75名・9月26日/35名・11月21日/22名） ・緩和ケア講演会　in　滋賀　1回（2月27日/76名） 大阪医科大学： 三島圏域緩和ケア研修会の開催 5/27 参加者　113名　2/24、2/25　参加者　78名 京都薬科大学： 教員の指導能力向上等のため、主にがんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義として実施している。 【医薬品評価科学特論】 ・「医薬品承認申請と医薬品評価」（7月20日、参加者40名） 【創薬腫瘍科学特論】 ・「ペプチド化学を基盤とする中分子創薬への展開」（7月21日、参加者6名） 【がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー/臨床薬学研究者養成セミナー】 ・「薬剤師と博士号―専門性をもった薬剤師の活躍と期待―」他（1月28日、参加者65名）	
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	29年度取組状況 京都大学： 放射線治療科は、治療に関わるすべての癌腫においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和ケアに関しても、緩和ケア専門医4名、精神科医2名、看護師3名、薬剤師1名、作業療法士1名、MSW1名による多職種専門の緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。	（資料7） 医療チームの整備体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： 緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。 三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。 滋賀医科大学： 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチーム、化学療法チームを設置して運用している。 大阪医科大学： 多職種による緩和チームの編成かなされており、毎週木曜日に定例会を開催している。	
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数	29年度取組状況 京都大学： がんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフの多職種が参集する「キャンサーボードの体制」（資料８－１）のとおり、①前立腺がんユニットカンファレンス～⑲胆道がんユニットカンファレンスが活動している。 三重大学： 大学病院内の多職種（医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等）の参加が可能なチューマーボード、また、骨転移合同カンファレンスを開催している。 滋賀医科大学： ・平成29年度腫瘍センター主催のキャンサーボード：適宜開催 ・臓器別ミーテイング：隔週～毎週 ・臓器別キャンサーボードは各診療科において毎週もしくは隔週で開催 大阪医科大学： 緩和ケアチーム、がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	（資料8） キャンサーボードの体制
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	29年度取組状況 京都大学： 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 入院患者のがん薬物治療に関する症例検討会を週1回開催、診療科・職種横断的な外来化学療法に関する検討会を月1回、外来化学療法を安全かつ円滑に運用するため、専門医、看護師、薬剤師、SWなどによるチーム医療会議を毎月開催し、安全管理、実務管理を行っている。 また、京大がんセンターにおけるがん薬物治療を安全に実施するため、がんに関連するすべての診療科、薬剤部、看護部、医療安全部、病理部、緩和ケアチームなどによる会議を隔月で開催し、医療安全部、病理部なども含めて、医療の質の向上に貢献している。	（資料8） キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 キャンサーボード：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。 （婦人科コース） 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。 （小児・AYA世代コース） 新規に治療を開始した患者および治療中の患者の治療方針や経過に関するカンファレンスを週2回行っている。また、単科だけでなく他の診療科(脳外科、放射線診断科、整形外科、血液内科、病理診断部)を含めた合同カンファレンスを開催し、質の向上を図っている。 (放射線治療コース) 各ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロコース生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。 （外科治療・集学的診療コース） 専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。 （リハビリテーションコース） 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等（がんサポートチームのカンファレンス等）に参加（2週に1回程度） （緩和ケアコース） 緩和ケアチーム依頼を受けた症例検討会を週1回開催し、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、MSWなどによる多職種横断的なアセスメントとケアの実践を行っている。 三重大学： 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当者で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やtumor board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行っている。 さらに、緩和ケアチームのカンファレンス、キャンサーボードに、27年度より、毎年、定期的に、米国の腫瘍内科医を招聘し、指導・教育を受けている。 滋賀医科大学： ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 ・病院機能評価受審に向けた取り組みと連携として、チーム医療の質の向上に向けた自己評価や診療マニュアルの改訂を進めている。 大阪医科大学： 緩和ケアチームの定例会が毎週1木曜日に開催されている。がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	29年度取組状況 京都大学： 29年度実施件数　640件 各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。	（資料8） キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 胃癌・GISTユニット（腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回）、 大腸がんユニット（腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回）、 膵がんユニット（（腫瘍内科医、肝胆膵外科、放射線診断科、毎週1回）、 食道がんユニット（（腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回）、原発不明がん・希少がんユニット（腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、随時）、 クリニカルシークエンスユニット（腫瘍内科医、外科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者、週1回）、 メラノーマユニット（皮膚科、腫瘍内科、月1回） （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 医師と看護師によるカンファレンス；毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス；適時（2週間に1回程度）。キャンサーボード；病理カンファレンス毎週2回（月、水の朝）。画像カンファレンス毎週1回（水曜日の夕方）。放射線治療カンファレンス毎週1回（木曜日の夕方）。 （放射線治療・医学物理士コース） 医療チーム： 放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師定期的に会議を開き，診療の問題点，安全が確保されているか，などを討論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており，医学物理士が副議長を務めている。 キャンサーボード： 放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス（毎週月曜日），放射線治療科マンデーミーティング（毎週月曜日），医学物理グループカンファレンス（毎週水曜日），前立腺IMRTカンファレンス（毎週水曜日），放射線治療症例検討会（毎週月・水曜日） （放射線治療コース） 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファンレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画 具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。 （リハビリテーションコース） 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等（がんサポートチームのカンファレンス等）に参加（2週に1回程度） 履修者が専門性に応じて、京都大学医学部附属病院リハビリテーション部で、がん患者のリハビリテーション治療に参加 （緩和ケアコース） 緩和ケアチームのカンファレンスを毎週1回木曜日昼に開催。 三重大学： 病院全体のtumor board（月1回）、骨転移合同カンファレンス（月1回）のほかに、乳癌治療検討会（月2回）、婦人科カンファレンス（毎週1回）、耳鼻科カンファレンス（毎週1回）、脳神経外科カンファレンス（毎週1回）、呼吸器カンファレンス（月2回）、食道カンファレンス（月1回）、産婦人科症例検討会（毎週1回）歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス（毎週1回）、乳腺疾患術後検討会（月2回）、血液腫瘍内科全体症例検討会（毎週1回）、血液内科検討会（毎週1回）、乳房再建検討会（月1回）を開催している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加を許可している。 1. 開催日：平成29年4月25日（火）、検討症例：進行乳癌と多臓器転位または重複癌の疑い、出席者：計18名 2. 開催日：平成29年7月4日（火）、検討症例：原発不明の淡明細胞癌、出席者：計30名 3. 開催日：平成30年3月14日（水）、検討症例：乳房境界悪性葉状腫瘍の再発転移症例、出席者計17名 ・以上の他に臓器別キャンサーボードは各診療科において毎週もしくは隔週で開催している。 大阪医科大学： がんセンターとして月2回程度開催している。	
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	29年度取組状況 京都大学： 平成29年度提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,377件 【地域がん登録】 京都府医師会へ 3,381件 三重大学： 三重大学がんセンター内で、院内がん登録と三重県の地域がん登録業務を実施しており、28年度の院内がん登録件数は2247件で、データはすべて地域がん登録データと連携して活用されている。 滋賀医科大学： ・附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・がん登録の活用に向けた手順書を設けて院内活用を図っている。 H29年度登録件数 【院内がん登録】国立がん研究センターへ1,573件 【全国がん登録（旧：地域がん登録）】都道府県知事へ1,573件 大阪医科大学： 院内がん登録件数3065件	
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	29年度取組状況 京都大学： 28件のがんプロ履修生によるプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 三重大学： ・履修生1名（ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース）が「乳房温存術後残存乳房形態の経時的変化に関する研究　プロトコル作成」に関与した。 滋賀医科大学： ・新規レジメン　53レジメン登録 ・平成29年度コース履修者が関与した件数：7件 大阪医科大学： 切除不能進行胃癌に対するTS-1+オキサリプラチン（L-OHP）+イリノテカン（CPT-11）（TIROX）併用療法　第I相臨床試験 1件	（資料9） プロトコル作成への関与状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	29年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、94件の国際学会、英文誌への発表をした。 各大学における29年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が海外において研究成果を発表させるため、国際学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 英文研究発表件数は、69件（学会発表 28件、論文発表　41件） 　うち筆頭発表数は、34件（学会発表 16件、論文発表 18件） 三重大学: 英文研究発表件数は、7件（論文発表6件） うち筆頭発表数5件 滋賀医科大学: 【国際学会・シンポジウムでの発表】4件 【英文誌への発表】4件 大阪医科大学: 国際学会、英文誌への研究論文発表数　7件 京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 平成29年度　国際学会、英文誌への研究論文発表数　3件	（資料10） 国際学会、英文誌への発表一覧
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	29年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の基、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、164件の国内学会、和文誌への発表があった。 各大学における29年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が国内において研究成果を発表させるため、国内学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 研究発表件数は、 56件（学会発表 51件、論文発表 5件） うち筆頭発表数は、36件（学会発表 33件、論文発表 3件） 三重大学: 学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行っている。 国内学会発表件数36件　うち筆頭発表8件　単著発表1件 滋賀医科大学: 【国内学会・シンポジウム発表実績】 23件 【和文誌への発表】1件	（資料11） 国内学会、雑誌等への発表一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 国内学会、和文誌への研究論文発表数　47件 京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。学会等発表1件	
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	29年度取組状況 がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのがんプロ履修生の参加を推進しており、拠点全体として22名の参加者となった。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 「がんプロ養成管理委員会」において、海外腫瘍学会に参加するだけでなく英文研究発表・研究情報交換を前提とする学生に対して旅費等を予算化し経費支援する体制を構築している。 参加者数は、19名 滋賀医科大学： 【国際学会等（海外開催）への参加者数】 1名 大阪医科大学： 国際学会等への参加者数　2名	（資料12） 海外学会・シンポジウム等参加状況
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	29年度取組状況 がんプロ履修生が専門的知識を収集できる国内腫瘍学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として 148名の参加者となった。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 「がんプロ養成管理委員会」において、国内学会へのがんプロ履修生の積極的な参加と研究成果発表を推進するための旅費等を予算化し助成支援する体制を構築している。 参加者数は、77名 三重大学： コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等、学会等での研究発表に対して、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。 参加者数は、14名 滋賀医科大学： 国内学会等（国内開催）への参加者数　28名 大阪医科大学： 国内学会等への参加者数　24名 京都薬科大学： 平成29年度国内学会等への参加者数5名	（資料13） 国内学会・シンポジウム等参加状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【シンポジウムやセミナー等の実施】				
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	事業期間中（5年間） 達成目標 本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数240件、参加者14,400人を目標とする。 29年度取組状況 各種団体（地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等）との連携した取り組みを推進した。 各大学における29年度取組状況 京都大学: 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置（がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース、様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース、家族性腫瘍（遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など）に対応できる医療人育成コース、ビックデータ医科学を担う人材育成コース、社会と交流できるがん相談支援者育成コース）して、地域医療機関等と連携した取組みを行っている。 （がん化学療法チーム養成コース） がん治療に係わる基幹病院の医師・看護師・薬剤師を対象に、最新かつ高度な専門的知識・技術の普及、およびチーム医療のがん専門医療職養成するために、「京大病院がんチーム医療研修」を定期的に開催している。 がん薬物療法を中心に基本的スキルの修得だけではなく、京大病院の最新システムの研修を行った。さらに、各施設の現状・問題点・解決法について意見交換を行い、その後の問題点解決に向けた取り組みをフィードバックした。 平成29年度：10.31～11.1,、11.28～11.29、12.12～12.13、1.16～1.17、2.6～2.7、3.6～3.7　23施設・69名参加 （小児・AYA世代コース） 平成30年2月9日に大阪大学中之島センターにて、近畿地区の若手小児科学医療従事者を対象とする「第11回近畿若手小児血液クラブ」を、大阪大学拠点と合同で開催し、症例に係る報告・意見交換を実施 （放射線治療・医学物理士コース） 全国の放射線治療施設の高精度放射線治療技術導入を推進するため、2005年に第1回の高精度放射線治療ワークショップを開始し、今年は1回開催した。また、市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを2回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。 2018/3/11　第30回高精度放射線治療ワークショップ（21名） 2017/9/30　第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム（99名） 2018/3/3　　第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム（92名） （リハビリテーションコース） コース履修生1名が、地域在住がん患者を含む利用者の在籍するデイサービスでのリハビリテーション業務に参加 コース履修生1名が、京都市ひと・まち交流館においてがん患者を含む利用者に対する自助具提供に関するアドバイザー業務に参加 （がん専門薬剤師養成コース） 平成29年11月22日に地域薬剤師を対象とした研究会「第2回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都」を京都府薬剤師会と共にがんプロ後援にて開催（京都ロイヤルホテル＆スパ、参加者74名）。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院−薬局−在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第1回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として開催した。（平成30年2月17日、参加者81名）	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学: 第5回三重骨転移セミナーを4月22日に開催（45名参加） 第2回がん薬物療法セミナーを5月31日に開催（64名参加） 第9回三重メディカル・オンコロジーフォーラムを6月30日に開催（55名参加） 第24回三重肺癌研究会を7月22日に開催（30名参加） 三重泌尿器科臨床セミナーを9月1日に開催（22名参加） 第22回三重リンパ腫フォーラムを9月5日に開催（41名参加） 第3回がん薬物療法セミナーを9月26日に開催（38名参加） 第1回がん生殖医療研究会を10月5日に開催（91名参加） 骨髄腫セミナーin MIEを10月13日に開催（18名参加） Mie Breast Cancer Seminarを10月27日に開催（35名参加） 第25回三重肺癌研究会を11月25日に開催（24名参加） 第4回がん薬物療法セミナーを1月23日に開催（45名参加） 第23回三重リンパ腫フォーラムを2月23日に開催（42名参加） 骨髄腫セミナーin MIEを2月16日に開催（24名参加） 第17回血液腫瘍フォーラムを3月2日に開催(32名参加） MIE T790M Test Forumを3月15日に開催（31名参加） Current Trend of Immunotherapy in MIEを3月22日に開催（27名参加） 三重県内の医療機関、医師会と連携し、 緩和ケア研修会を29年6月10,11日（33名参加）、8月26、27日(13名参加)に開催 緩和ケアセミナーを7月27日（111名参加）、10月19日（76名参加）、30年1月18日（94名参加）に開催 緩和ケアフォローアップ研修会を30年1月8日に開催（58名参加） 第8回早期からの緩和ケアを考える会を29年5月26日に開催（78名参加） 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、 がんチーム医療研究会を9月8日に開催（98名参加） 歯科医師会と連携した、 医科歯科連携推進人材養成研修会を、29年9月24日に開催（108名参加） 県内各医療機関にて放射線治療を行っている医師・技師・看護師を対象に、 第2回三重がん放射線治療研究会を開催29年3月18日に開催 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2回（12月2日/81名、2月24日/128名） ・滋賀県がん薬物療法coference:2回（11月19日/28名、3月7日/27名） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー:1回（12月19日/99名） 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会:1回（10月7日/32名） ・病診連携フォーラム:1回（11月12日/48名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回（11月3日/73名、1月21日/89名） ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀:1回（8月24日/40名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）:5回（8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名） ・腫瘍センター講演会:3回（7月19日/75名、9月26日/35名、11月21名日22名） ・滋賀県がん医療フォーラム（滋賀県との共催）:1回（2月18日/170名） ・緩和ケア講演会in滋賀:1回（2月27日/76名） ・第34回滋賀医学会総会　醍醐弥太郎「肺がん薬物療法のトピックスと展望」（教育講演）:11月11日/医師会会員約30名　大津 【その他】 ・リレー・フォー・ライフ ・ジャパン2017（日本対がん協会事業に協力・開催支援）:1回（10月8日、9日/700名 大阪医科大学: 三島圏域がん研究会（5/25） 165名、（9/14） 97名、（1/25） 80名 三島圏域緩和ケア研修会（2/24.25） 78名 （5/27） 113名 がんセンター講演会（6/29） 41名、（7/5） 87名、（9/21） 33名、（10/11） 187名、（12/14） 23名、（3/8） 36名	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学： 第3回 市民公開講座「前立腺がん」（2018年2月24日、参加者134名）を開催した。本講座は、本学と一般社団法人京都府薬剤師会との連携によるものである。	
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	29年度取組状況 社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況（平成29年度）」のとおり推進した。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、毎年度、他拠点大学（京都府立医科大学）との連携で、「府民公開講座」参加185人を実施 （30年3月18日実施 「がんゲノム医療最前線−がんの遺伝子異常の違いに基づいた個別化医療−」） （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 平成29年3月5日 平成28年度女性の健康週間府民公開講座「女性のヘルスケア：月経・出産・がん」を開催、参加者50名 （小児・AYA世代コース） 平成30年3月17日に医療者、学校関係者、一般市民向けに小児がん拠点病院公開シンポジウムを開催し、小児がん拠点病院事業の進捗状況を報告するとともに地域医療連携につきパネルディスカッションを行った。 （外科治療・集学的診療コース） 平成29年10月29日（日） 「第15回京都乳がん市民公開講座　～ 乳がん予防！？私たちにできること ～　」を開催、参加34人 （リハビリテーションコース） 「がんリハビリテーション特別講演会」を開催（平成30年1月27日、参加43人） 「関西がんのリハビリテーション研究会」を共催（平成29年9月2日、参加78人） 三重大学： 生命の駅伝とのジョイント市民公開講座「がんの栄養とリハビリ」を29年5月28日に開催し、131名が参加した。 市民公開講座「パープルリボン・膵臓がんについて学ぶ」を、29年9月10日開催し、269名が参加した。 市民公開講座「がんの在宅医療について」を、30年3月4日に開催し、748名が参加した。 滋賀医科大学： 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・乳がん市民公開講座：1回（11月12日/140名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回（11月3日/73名、1月21日/89名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）：5回（8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名） ・滋賀県がん医療フォーラム（滋賀県との共催）：1回（2月18日/170名） 大阪医科大学： がんセンター市民講座　2/17　120名参加 京都薬科大学： 第3回 市民公開講座「前立腺がん」（2018年2月24日、参加者134名）を開催した。本学近隣への新聞折込チラシ配布、新聞記事に掲載、ホームページに掲載など積極的に情報発信をした。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	29年度取組状況 京都大学： インテンシブ事業を活用して、継続して地域医療への貢献を推進している。 ・がん専門薬剤師養成研修を年2回実施 （平成29年11月22日、平成30年2月17日） ・がんチーム医療研修を6回実施 （10.31～11.1,、11.28～11.29、12.12～12.13、1.16～1.17、2.6～2.7、3.6～3.7）、 ・第9回関西婦人科腫瘍・病理談話会 （平成29年11月23日） ・高精度放射線治療ワークショップ （第30回、平成30年3月11日、（医師・技師・医学物理士　21名参加） ・第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム （平成29年9月30日）（医師・技師・医学物理士 約99名参加） 第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム （平成30年3月3日）（医師・技師・医学物理士 約92名参加） を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。 三重大学： インテンシブコースとして、第1回がん薬物療法における薬薬連携研究会(29年8月6日、123名参加)、第2回がん薬物療法における薬薬連携研究会30年1月28日、108名参加)をそれぞれ開催した。 地域の病院でがん診療に従事する多職種に広く参加を呼び掛けて開催している。 滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回（12月2日/81名、2月24日/128名） ・滋賀県がん薬物療法coference：2回（11月19日/28名、3月7日/27名） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー：1回（12月19日/99名） 【ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回（11月3日/73名、1月21日/89名） ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀：1回（8月24日/40名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）：5回（8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名） ・腫瘍センター講演会：3回（7月19日/75名、9月26日/35名、11月21名 日22名） ・緩和ケア講演会in滋賀：1回（2月27日/76名）	（資料6） インテンシブコース実施事業
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】				
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	29年度取組状況 「がんプロ事業推進運営委員会」において、国際的な視野を有したがん専門医療人養成のために先進的医療・研究機関等にて研修する制度として「5大学連携海外合同教育セミナー」を企画し、毎年度各大学から履修生を選抜して研修を実施する連携事業の枠組みを構築した。これにより、連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、及び先進的医療・研究機関との国際交流を実施した。 29年度は、米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターにおいて「5大学連携海外合同教育セミナーin MDACC」(30.3.12～13)の企画し、各大学から選抜された大学院生5名と帯同する教員1名にて開催した。セミナーでは、がんプロ履修生自身がMDACCの研究者を前にして研究成果を発表し、その研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供した。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 「がんプロ事業推進運営委員会」にて企画した「5大学連携海外合同教育セミナーin MDACC」(30.3.12～13)に教員1名と大学院生1名が参加した。 「がんプロ養成管理委員会」において、がんプロ履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生11名に対して、旅費と学会参加費を支援経費支援を行い、学修研究意欲の向上図った。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： コース履修者の海外での研修の場合は経済的サポートを積極的に行い、現地へ留学中の研究者と活発な交流を行えるように手配する体制を整備している。 平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（米国）に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。 滋賀医科大学： ・「5大学連携海外合同教育セミナー」に大学院生1名（ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース）が参加し、研究発表を行った。 ・77th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2017 Seoul,Republic of Korea に大学院生1名（ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース）が参加しポスター発表を行った。 大阪医科大学： 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（米国）に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。 京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば学内規程（京都薬科大学科学振興基金規程）により、留学に必要な資金に充当できる助成金を支給する。 平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（米国）に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。	
	20	国際交流プログラムの実施数	事業期間中（5年間） 達成目標 MDアンダーソンとの交流プログラムをはじめ、韓国ソウル大学、国立台湾大学、シンガポール大学等と連携合同教育セミナー等　15件を目標とする。 29年度取組状況 5大学連携の国際交流プログラムとして、米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターにおいて「5大学連携海外合同教育セミナーin MDACC」(30.3.12～13)を開催し、教員1名と大学院生5名が参加した。 各大学における29年度取組状況 京都大学： 1）MDアンダーソンがんセンターとの交流事業を推進させるため、平成30年3月12・13日に5大学連携海外合同教育セミナーにがんプロ指導教員1名、がんプロ履修生1名を参加させた。 （がん専門薬剤師養成コース） 2）平成29年11月10日、米国メリーランド州ボルチモア大学にて、がんプロ指導教員1名と履修生1名による研究室ミーティングを実施した。 三重大学： 米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターとの5大学連携海外合同教育セミナー（28年3月12日～13日）に1名が参加した。 滋賀医科大学： ・国際交流として海外協定校から短期留学生を受入れるSUMS Grantを設け、留学生終了後は、滋賀医科大学大学院入学を目指すものとしている。 （平成29年度　客員研究員1名） ・米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターとの5大学連携海外合同教育セミナー（28年3月12日～13日）に1名が参加した。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターとの5大学連携海外合同教育セミナー（28年3月12日～13日）に1名が参加した。 京都薬科大学： 平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（米国）に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。	
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	事業期間中（5年間） 達成目標 特別講演等　30件を目標とする。 29年度取組状況 京都大学 1）免疫ゲノム医学学術講演会「Drug Combinations for Cancer Immunotherapy」（H29.8.30） Senior Vice President, Oncology Discovery Biology at Bristol·Myers Squibb Nils Lonberg, Ph.D. 2）腫瘍生物学セミナー「Translating recent cancer genomic discoveries」（H29.10.17） Department of Epidemiology–Biostatistics,Center for Molecular Oncology, Memorial Sloan Kettering Cancer Center Dr.Elli Papaemmanuil 3）高松宮妃癌研究基金第37回国際講演会「Stem Cell–grown Organoids as Models for Human Disease」（H29.11.8） Hubrecht Institute　Molecular Genetics at the University Medical Center Utrecht and Utrecht University Professor　Dr. Hans Clevers 4）学術講演会「Therapeutic targeting of p53: all mutants are equal, but some mutants are more equal than others」（H29.12.5） DukeNUS Medical School – National Cancer Center Singapore Professor　Kanaga Sabapathy 三重大学： 米国ダートマス大学血液/腫瘍内科associate professorの白井敬祐医師を講師として、招聘し、29年7月3日に「がん患者とのコミュニケーションについて」の講演会を開催した。	
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】				
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	事業期間中（5年間） 達成目標 がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた取り組み　10件を目標とする。 29年度取組状況 近畿地区にある「ゲノム世代高度がん医療人養成」（大阪大学拠点）と「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」（近畿大学拠点）との連携事業として、教職員・学生・一般聴講者を対象としがんプロ人材養成事業の取組概要を周知する「近畿地区3拠点合同フォーラム」を平成30年2月23日に開催した。さらに、他拠点が開催するシンポジウム「第1回国際がん研究シンポジウム」（近畿大学）に、本拠点の履修生6名による研究成果発表の推薦を行い、履修生のプレゼン能力向上を図ると共に、他拠点との人材交流を行った。 地域のがん診療拠点等との連携としては、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、高精度放射線ワークショップ、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。 また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における29年度取組状況 京都大学: がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研修(6回)(薬剤師・看護婦・医師69名参加)を実施した。 1回(10/31-11/1) 12人、2回(11/28-29) 12人、3回(12/12-13) 12人、4回(1/16-17) 9人、5回(2/6-7) 12人、6回 (3/6-7) 12人 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 平成29年3月5日 平成28年度女性の健康週間府民公開講座「女性のヘルスケア:月経・出産・がん」を開催、参加者50名 (リハビリテーションコース) 「関西がんのリハビリテーション研究会」を共催(平成29年9月2日、参加78人) (がん専門薬剤師養成コース) 平成29年11月22日に地域薬剤師を対象とした研究会「第2回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都」を京都府薬剤師会と共に開催(京都ロイヤルホテル＆スパ、参加者74名)。 平成30年2月17日に京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化することを目的として、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共に「第1回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」(インテンシブコース)を開催(京都大学薬学部記念講堂、参加者81名) 三重大学: 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケア研修会を29年6月10,11日(33名参加)、8月26、27日(13名参加)に開催した。同様にして、緩和ケアセミナーを7月27日(111名参加)、10月19日(76名参加)、30年1月18日(94名参加)、緩和ケアフォローアップ研修会を30年1月8日(58名参加)した。また、第8回早期からの緩和ケアを考える会を29年5月26日に開催(78名参加)した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、がんチーム医療研究会を29年9月8日(98名参加)に開催した。 歯科医師会と連携した医科歯科連携推進人材養成研修会を29年9月24日(108名参加)に開催した。 理学療法士会と連携した三重がんリハビリテーション研修会を29年10月14,15日(60名)に開催した。 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・東近江総合医療センターの薬剤師(1名)と滋賀県成人病センターの薬剤師(1名)が、がん薬物療法認定薬剤師の研修(3ヶ月間)を受けた ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2回(12月2日/81名、2月24日/128名) ・滋賀県がん薬物療法coference:2回(11月19日/28名、3月7日/27名) ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー:1回(12月19日/99名) 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会:1回(10月7日/32名) ・病診連携フォーラム:1回(11月12日/48名) ・乳がん市民公開講座:1回(11月12日/140名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回(11月3日/73名、1月21日/89名) ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀:1回(8月24日/40名) ・‘がんを学ぼう’市民公開講座(NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催):5回(8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名) ・腫瘍センター講演会:3回(7月19日/75名、9月26日/35名、11月21日/22名) ・滋賀県がん医療フォーラム:1回(2月18日/170名) ・緩和ケア講演会in滋賀:1回(2月27日/76名) ・第34回滋賀医学会総会　醍醐弥太郎「肺がん薬物療法のトピックスと展望」(教育講演):11月11日/医師会会員約30名　大津 【その他】 ・リレー・フォー・ライフ ・ジャパン2017(日本対がん協会事業に協力・開催支援):1回(10月8日、9日/700名)	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学: 三島圏域がん研究会　3回（5/25）165名、（9/14）97名、（1/25）80名 三島圏域緩和ケア研修会　2回（2/24.25）78名、（5/27）113名 がんセンター講演会　6回（6/29）41名、（7/5）87名、（9/21）33名、（10/11）187名、（12/14）23名、（3/8）36名	
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	29年度取組状況 5大学間の人材交流、多職種交流を図るため、「5大学連携海外合同教育セミナー」を3月12～13日に米国テキサス州立大学MDACCにて実施した。 さらに、平成30年2月23日に京都教育文化センター 2階ホールにて、連携大学間の人材交流、多職種交流を目的とした「5大学連携医療フォーラム」、近畿地区の他拠点（大阪大学拠点、近畿大学拠点）との合同事業とした「近畿地区3拠点合同フォーラム」を実施した。 各大学における29年度取組状況 京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(6回)（薬剤師・看護婦・医師69名参加）、 高精度放射線治療ワークショップ(第30回)(医師・技師・医学物理士21名参加)、 第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士99名参加） 第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士92名参加） （放射線治療・医学物理士コース） 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催。 平成29年度は、診療放射線技師向け勉強会1回、診療棟看護師向け勉強会1回、外来看護師向け勉強会1回を開催。各参加者は、10名～20名程度 三重大学: 医師、薬剤師、看護師が参加する緩和ケア研修会（2件46名）、緩和ケアフォローアップ研修会（1件58名）、緩和ケアセミナー（3件281名）、早期からの緩和ケアを考える会（1件78名）、がんチーム医療研究会（1件98名）。 医師、歯科医師、歯科衛生士が参加する医科歯科連携研修会（1件108名）。 医師、理学療法士、看護師が参加するがんリハビリテーション研修会(1件60名)。 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2回（12月2日/81名、2月24日/128名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計37名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計35名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師932名にがん医療に関わる研修を実施した（合計12回の研修）。 大阪医科大学: がんセンターで月2回で全体会議（キャンサーボード）年間208名参加	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	29年度取組状況 京都大学: 「レベルアップ研修」10月31日～11月2日　20名参加 京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア（PEACE）研修会」2017/7/1-2　41名参加 ・「第2回緩和ケア（PEACE）研修会」2017/11/4-5　50名参加 ・「ELNEC-J研修会」（エンドオブライフケアについて）2017/9/9-10　54名参加	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（緩和医療学講座） 緩和ケア研修会を修了し事前に登録をした京都府下の勤務医／開業医を対象とした『双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業』として、身体・精神コースにわけて各コース月1回インターネットによる講義を開催している。 三重大学: 緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップのための緩和ケアセミナーを、29年7月27日(111名参加)、29年10月19日（76名参加）、30年1月18日(94名参加)に開催するとともに、がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（2日間)を、29年6月10-11日(33名参加)、29年8月26-27日(13名参加)、対人援助・スピリチュアルケア研修①(3日間)を29年11月5日、29年11月19日、29年12月5日（4名参加)、対人援助・スピリチュアルケア研修②(2日間)を29年12月3日、29年12月17日（7名参加)、緩和フォローアップ(チーム)研修を30年1月8日(58名参加)に開催した。 滋賀医科大学: 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・緩和ケア講演会in滋賀：1回（2月27日／76名） ・腫瘍センター講演会：3回（7月19日／75名、9月26日／35名、11月21日／22名） ・滋賀県緩和ケアフォローアップ研修会：緩和ケア研修会修了者19名参加（1月20日）。最新の緩和ケアの手法の研修を実施した。	
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	29年度取組状況 京都大学: がんチーム医療研修(6回)（薬剤師・看護婦・医師69名参加)、 高精度放射線治療ワークショップ(第30回)(医師・技師・医学物理士21名参加)、 第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士99名参加） 第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士92名参加） 三重大学: 現在、兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行っている。 滋賀医科大学: 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・名古屋大学医学部附属病院化学療法部においてゲノム薬理学の教育についての意見交換会（8/9）を行い、がん薬物療法における薬理ゲノミクスセミナー（3/18）を開催した ・名古屋大学医学部附属病院薬剤部においてレジデントを対象に「個別化がん薬物療法」の講義を行った（8/23） ・AMED「がんの個別化医療の実用化に向けた解析・診断システムの構築研究」班講習会のファシリテーターを務めた（8/26、8/27） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・帝京大学がんセンターでの大学院講義を1回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・帝京大学内科学講座でのがん関係学部講義を2回実施し、がん医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・東京大学大学院（TR看護学）での大学院講義を1回実施し、がんTR研究推進の方策に関して啓蒙した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】				
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	29年度取組状況 事業の運営体制 【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 　連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 （構成員） 　事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員 【養成管理委員会等】・・・各大学 　各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 （構成員） 　大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者 各大学における29年度取組状況 京都大学: 「事業推進運営委員会」 ・・・ 2回（主幹校として開催） 第1回 H29.09.01 第2回 H30.02.23 「養成管理委員会」・・・・・・・ 2回 総括コーディネーターを委員長として、事業推進運営委員会で審議決定された事項の取組に向けて意思確認や各担当コースの運営方針を決定する。 第1回 H29.09.01 第2回 H29.11.13 三重大学: 「5大学連携事業推進運営委員会」が、29年9月1日に第1回が開催され、三重大学から教員2名、事務1名が参加、30年2月23日の第2回には、教員1名、事務2名が参加した。 滋賀医科大学: 連携5大学で構成される事業推進運営委員会等を通じて、事業に関する情報収集と連携を行っている。 学内では学生課大学院教育支援係の支援の下、臨床腫瘍学講座が事業コーディネートと統括を行い、同講座、外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、薬剤部が各大学院コースを担当している。適宜、対面・メール会議を開催し、進捗の把握、評価、今後の方策を決定している。 大阪医科大学: 年2回事業推進運営委員会に参加し、各校との情報共有、海外セミナーや医療シンポジウムの開催を行うことなどを決定している。 京都薬科大学: 事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価（外部評価を含む。）の決定事項を情報収集する。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	29年度取組状況 【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDACサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直し行う体制を構築します。なお、平成29年度は事業初年度であるため、外部有識者による外部評価は平成30年度事業期間に実施する。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	29年度取組状況 平成30年2月23日に京都教育文化センターにおいて、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、本拠点の事業推進責任者であり京都大学医学研究科　武藤　学 教授による特別講演「がんゲノム医療の社会実装と人材育成」、および、連携大学のコーディネーター5名による「高度がん医療を先導するがん医療人養成」－各大学における取り組み－についての発表があり、教職員・学生だけでなく、一般聴講者への事業取組の特色等の紹介が行われた。 また、同日に引き続き、拠点間の枠組みを越えた近畿地区の他拠点（大阪大学拠点、近畿大学拠点）との合同事業とした「近畿地区3拠点合同フォーラム」を実施し、各拠点の特色を踏まえた特別講演、がんプロ事業へのディスカッションを行い、3拠点間での事業取組の共有化、拠点間連携の強化が行われた。	
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	29年度取組状況 連携する5大学の事業を効果的に推進するための「5大学連携　事業推進運営委員会」を2回開催、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学連携医療フォーラム」（平成30年2月23日）を1回開催、「5大学連携海外大学合同教育セミナー」（平成30年3月12～13日）を実施した。 また、他拠点（近畿大学拠点：7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン）が開催する国際シンポジウム「第1回国際がん研究シンポジウム」(30年3月10－11日、大阪）に、京都大学拠点からがんプロ履修生6名の演者推薦を積極的に行った。 各大学における29年度取組状況 京都大学： インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修（年6回）、高精度放射線治療ワークショップ（年1回）を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 温知会サマークリニカルフォーラム（関係病院の若手医師による症例報告会）を開催（平成29年7月17日、150名）。京都女性のヘルスケア研究会（京都を中心とする関係病院の若手医師および開業医による勉強会）を開催（平成29年10月28日）。 （小児・AYA世代コース） 大阪大学がんプロ拠点、兵庫県立こども病院、公益財団法人田附興風会北野病院との合同事業として、平成30年2月9日に大阪大学中之島センターにて、「第11回近畿若手小児血液クラブ」開催し、情報交換等を実施 （リハビリテーションコース） 大阪医科大学関連のがんリハビリテーションを専門とする医師を、修士課程講義非常勤講師として招請 三重大学： ・7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン　第1回国際シンポジウム(30年3月10－11日、大阪）に履修生1名が研究発表 滋賀医科大学： 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・化学療法室において京都薬科大学のがんプロ大学院生（1名）が年間を通して研修を受けた。 ・化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、立命館大学、摂南大学、大阪薬科大学から計35名が研修。合計指導時間 420時間。 ・緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、立命館大学、摂南大学、大阪薬科大学から計35名が研修。合計指導時間 33時間。 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議（研究発表会）が京都大学で開催され、本学より教職員2名（内1名は元がんプロ学生）、大学院生2名が参加した。（平成30年2月17日開催）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学: 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、実習コーディネーター、教育担当コーディネーターを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会を設け、事業の企画立案・実施・評価（外部評価を含む。）の決定を行う。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	
	30	連携5大学　コース履修者の e－learning 受講登録率	29年度　取組状況 京都大学版 e－learning は、当初からホームページにて受講者募集の案内をしており、その受講できる対象者は、京都大学と連携大学のがんプロ履修生だけでなく、次の方々が受講登録できるシステムであります。 ・京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 ・がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 ・本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方 平成29年度のがんプロホームページのサイトデザインの刷新と共に、バナーボタンの変更も実施し、よりわかりやすいデザインに変更を行った。 三重大学: 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を積極的に勧めている。 京都薬科大学: 連携5大学のe-learningに登録し、受講を積極的に勧めている。講義学生受講登録率100%	
	31	新たな e－learning　講義科目の提供の取組みについて	29年度　取組状況 拠点の取り組みとして、29年度において、平成30年2月23日開催した「5大学連携医療フォーラム」での特別講演「がんゲノム医療の社会実装と人材育成」を、新たに撮影・収録し聴講できるようにしたことにより、分野横断的、先進的教育が推進されるものと期待されている。	
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	29年度　取組状況 京都大学では、従前の教育プロジェクト毎に特定職員、事務補佐員を配置し、総務的業務、経理的業務、教務的業務と幅広い業務に対応してきたが、対応する職員の経験のない業務には手薄であった。このため、複数のプロジェクトの担当職員を統合し、プロジェクトを横断的に支援できる教育推進室を設置した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【事業の普及】				
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	29年度　取組状況 平成29年度は、京都大学がんプロ拠点としてホームページのサイトデザインを刷新した。これにより、連携する5大学（京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学）の広報活動の実施、地域医療貢献のための各種フォーラムや公開講座等の開催情報をホームページ上段に配置して、逐次更新し、履修者及び社会から、拠点としてのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めた。 また、掲載情報は京都大学拠点だけでなく、他拠点との府民公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラムも掲載し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努めた。 更に、毎年度実施してきた「外部評価」も、HPにておいて公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めている。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」 三重大学： 三重大学大学院及び三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ入学案内を含めた本事業の情報公開を行っている。また、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を呼び掛けている。ホームページに加えて、大学院で作成したパンフレットをインテンシブコースの講演会等で積極的に配布し、本事業の紹介を行っている。 滋賀医科大学： 本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。 また、本学がんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。 平成29年度更新回数17回 大阪医科大学： 本学のホームページから本事業のホームページとのリンクをとって、公開講座開催概要等を集約して情報公開を行っており、積極的に広報を行っている。 京都薬科大学： 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学での取り組みを、京都大学に情報提供し公開を行っている。 本学リンクページ：https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/#symposium	
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	29年度　取組状況 京都大学： 京都府がん医療戦略推進会議の各部会（院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会）および、各種ワーキング（前立腺がん地域連携パスワーキング等）に当院から委員を派遣し、活動に協力している。（総勢26名が活動中） また、府内で実施している以下の事業に ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・小中学校、高校でがん教育 　H29.10.19　京都市立高野中学校　1年生75名 　H30.3.3　京都府八幡市立南山小学校　6年生65名+保護者　約90名 　（各回につき、医師1名を講師として派遣） ・かかりつけ医（がん対応力）向上研修・・・医師を対象とした研修 　H29.11.5（日）、11.26（日）、H30.1.4（日）　京都府医師会館 　（全日程で計5名の医師を講師として派遣） 講師派遣する等して、府のがん対策の企画立案に積極的に貢献している。 各コースにおいては （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 地域がん拠点病院を中心に免疫チェックポイント阻害剤における有害事象対策など外来化学療法に関する情報交換会を開催(平成29年9月5日＠京大病院)	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) ①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。 ②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。 ③京都産婦人科医会主催の勉強会に講師を派遣している。 (がん専門薬剤師養成コース) 長期にわたるホルモン治療薬の服薬アドヒアランス低下や自己判断での治療中断を防ぐことを目的として、乳腺外科医師と薬剤師の協働による術後入院・退院患者を対象としたホルモン治療教室を2015年7月より開始している。医師−薬剤師外来−かかりつけ薬局間の連携の強化を図り、保険薬局には患者情報について、トレーシングレポートで薬剤部へ報告してもらい、これにより双方向の情報共有を目指している。またその内容は薬剤師が電子カルテに取り込み、メールで主治医にフィードバックを行っている。 三重大学: 三重大学がんセンターの医師が、29年度の三重県のがん対策戦略プラン策定検討部会の部会長を務め、第4期三重県がん対策戦略プラン(がん対策推進計画)を策定した(30年3月に完成)。また、三重県のがん対策推進協議会の緩和ケア部会、医科歯科連携部会、PDCAサイクル部会、地域連携パス部会、がん相談支援部会、がん登録部会のそれぞれの部会長にも、がんセンター医師が任命されており、県のがん対策の推進に積極的に貢献している。 県教育委員会が主催する小学校、中学校の出前授業(29年11月9日、12月20日)に参加して「がん教育」の授業を行い、小学生、中学生との活発な質疑応答を行い好評であった。 滋賀医科大学: 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「第3期滋賀県がん対策推進基本計画」の推進に取り組んだ。	
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	29年度　取組状況 京都大学: (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 電子カルテ情報を共有できるP−リトリーバーシステムをがん薬物療法専門医のいる地域医療機関である三菱京都病院、京都民医連中央病院に導入し、新しい緩和ケアの指標作成を進めている。 (放射線治療コース) インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコールを閲覧可能としている。 (外科治療・集学的診療コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。 三重大学: 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進している。現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計18施設で、閲覧施設は計261施設になっており、連携する登録患者数は計16,488名となっている。 滋賀医科大学: ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院と大津医療圏病院(JCHO滋賀病院)へ配信している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	29年度　取組状況 京都大学: （手術療法コース） テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。 三重大学: 三重大学を拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行ってきた。しかし今まで使用してきたTVカンファレンスシステムのサポートが終了となり、新しいシステムを導入することとなった。そのため、カンファレンスの実施は、1月以降となったが、毎月1回のカンファレンスを再開することができた。各施設で生じた解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。 滋賀医科大学: ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院および大津医療圏のJCHO滋賀病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。	
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	29年度　取組状況 京都大学: 1）OncoPrime　セミナー LD7:I21IQUID BIOPSYを用いた網羅的がん遺伝子解析とその臨床応用 共催：三井情報株式会社 2）Meet the Expert Deep Learningの基礎と臨床応用の可能性 ～がんの治療応答性の予測について～ 共催：中外製薬株式会社 3）第34回　京都がん研究会 がん免疫療法 疾患横断的にがん免疫療法を考える－基礎から臨床への展開－ 共催：ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社、小野薬品工業株式会社 4）第2回　2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都 共催：日本化薬株式会社 5）第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム 共催：第一三共株式会社、株式会社バリアンメディカルシステムズ、 株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社 6）第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム 共催：第一三共株式会社、株式会社バリアンメディカルシステムズ、 株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社 7）第15回京都乳がん市民公開講座～乳がん予防！？私たちにできること～ 共催：エーザイ株式会社 8）第9回 関西婦人科腫瘍・病理懇話会 共催：大鵬薬品工業（株） （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京大が代表とした医師主導治験の成果で薬事承認した新しい治療（放射線療法、化学放射線療法後の遺残再発食道癌に対する救済光線力学療法）に関する技術認定講習会を開催した（平成29年6月10日、10月11日）。 食道癌のリスク評価に関する研究会「アルデヒド呼気試験研究会」を日本写真印刷株式会社および株式会社FISとを立ち上げ、研究会を平成30年2月24日に開催した。 「Liquid Biopsy セミナー」として、liquid biopsyと呼ばれる、がん組織から血中に遊離したDNAを用いたがん遺伝子パネル検査についての結果解釈を中心としたセミナーをGuardant Health社と共に平成30年3月27日に開催した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（小児・AYA世代コース） 平成30年2月9日大阪大学中之島センターにて、「第11回近畿若手小児血液クラブ」を中外製薬株式会社と大阪大学がんプロ拠点と合同で、近畿地区の若手小児科学医療従事者を対象として講演会を実施 （放射線治療医コース） 放射線増感作用を持つ新規分子標的薬の開発を目的とした共同研究を製薬会社2社と行っており、がんプロコース生が実験を担当している。 三重大学： 三重大学を中継拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファランスを行っており、解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。 滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回（12月2日/81名：MSD（株）、大鵬薬品工業（株）、2月24日/128名：ニプロ（株）） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー：1回（12月19日/99名：協和発酵キリン（株）） 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・病診連携フォーラム：1回（11月12日/48名：中外製薬（株）） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀：1回（8月24日/40名：ブリストル・マイヤーズスクイブ（株）、小野薬品工業（株）） ・緩和ケア講演会in滋賀：1回（2月27日/76名：第一三共（株））	
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	29年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京都大学が三井情報と臨床実装したクリニカルシークエンス（OncoPrime)を岡山大、北海道大学、千葉大学に導入し、わが国のゲノム医療を先導している。また、クリニカルシークエンスに関する研究会を立ち上げた。AMEDの臨床ゲノム統合データベース事業のがん領域に採択され、クリニカルシーククエンスのゲノム情報と臨床情報を統合し、データシェアリングする取り組みを開始した。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） ①卵巣がんにおいて、VEGFが抗腫瘍免疫に与える影響を明らかにした。 ②卵巣明細胞癌において、SWI/SNF複合体構成分子の欠失と、臨床病理学的因子の関連を明らかにした。 ③婦人科がんにおいて、新たな免疫チェックポイント分子VISTA発現とその意義について検討している。 ④子宮体部漿液性癌において、STAT1が化学療法抵抗性に寄与するメカニズムについて検討している。 ⑤卵巣がんにおいて、SNAILが抗腫瘍免疫抑制をもたらす機序について検討している。 ⑥卵巣明細胞癌の遺伝子変異のパターンについて、エクソームシークエンシングによって検討している。 (小児・AYA世代コース) 1. 固形がんの表面抗原を標的とした新規治療法開発に関する基礎研究を推進し、動物モデルを用いて臨床応用を進めている。 2. 高度免疫不全マウスであるNOGマウスを用いて患者由来の白血病や固形がんをマウス体内で維持するPDX (Patient derived xenograft)マウスモデルを確立し、ヒト腫瘍細胞のin vivo解析系を構築することで病態の解明や新規治療法の開発を行っている。 3. 白血病の増殖／維持に関わる分子標的を探索的に研究し、PDXモデルを用いた新規治療法開発を行っている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（放射線治療・医学物理士コース） 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。 （手術療法・機器開発コース） 固形がんの発生や進展、転移に関わる分子生物学的研究を推進した。 がんの早期発見につながるバイオマーカーの開発を種々のがんで行った。 治療効果の予測、モニタリングマーカーの研究を行った。 がんの病態をモニタリングマーカーに関する研究を展開した。 新たな手術機器、診療機器の開発研究を行った。 新しい画像診断手法の開発研究を行った。 遺伝性癌のゲノム解析を行い、発症予測モデルに関する検討を行った。 （がん専門薬剤師養成コース） がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。さらに、抗がん剤の用量規定因子である末梢神経障害の新規治療・予防候補薬およびバイオマーカー探索を進めており、その成果に基づき、乳腺外科と協働でいくつかの臨床研究を開始した。 三重大学： ・がんゲノム医療連携病院の指定を受け、中核拠点病院の京都大学と連携しながら、がんセンター内に、がんゲノム医療部門の設置を準備し、がんゲノム医療を受けられる体制の整備を進めている。現在、ミライ-S、ミライ-Gのがん遺伝子パネル検査を実施し、遺伝子カウンセリングを既に行っている。 ・がん免疫療法を安全に実施するための医師（がん関連診療科、免疫関連診療科）、看護師、薬剤師、医療安全管理部スタッフ等で構成する免疫療法対策チーム発足の準備を進めている。 ・急性白血病に対するWT1を標的にしたTCR遺伝子改変T細胞輸注療法やCD19CAR-T療法等のがん免疫遺伝子治療の多施設共同臨床試験を実施できる体制を構築した。 滋賀医科大学： ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 京都薬科大学： 本学における「遺伝統計学研究プラットホーム」の構築に向けた共同研究体制を立ち上げた。	
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	29年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京都大学が三井情報と臨床実装したクリニカルシークエンス（OncoPrime)を岡山大、北海道大学、千葉大学に導入し、わが国のゲノム医療を先導している。 今後、東京医科歯科大、佐賀大、慶應大、北里大、信州大に導入し、わが国におけるがんクリニカルシークエンスを臨床実装し、保険診療を目指している。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） ①卵巣漿液性癌において、分子サブタイプと相関する病理組織分類を樹立し、それぞれの化学療法感受性を示して、個別化医療実現への道を示した。 ②卵巣がんの免疫逃避のしくみを解明し上皮間葉移行関連遺伝子であるSnailと免疫との関係に着目し、新しい「がん免疫逃避」のしくみを初めて明らかにした。さらに、卵巣がんが分泌するケモカインと受容体との結合を阻害する薬剤が、卵巣がんの新規免疫治療として有望である可能性も示した。本研究は、2018年5月1日に国際学術誌「Nature Communications」にオンライン公開した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(小児・AYA世代コース) 小児白血病や固形がんの表面抗原や分子標的に対する新規治療法開発へむけた基礎研究を推進している。 (放射線治療・医学物理士コース) 放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動体追尾照射を開始している. 肺癌・肝癌・膵癌に対する動体追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし, AMED革新的がん医療実用化研究事業より平成29-31年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。さらに、2017年11月24日には、世界で初めて回転原体照射による動体追尾放射線治療を行った。 また, 前立腺癌に対する強度変調放射線治療は、全例Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法（革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受けている）を行っており、さらに一部の脳腫瘍症例に対しても行った。現在、乳がん、脊椎転移など、他部位の症例に対してもDynamic WaveArc照射法が優位であるか研究を進めている。 (放射線治療コース) 実験検体および臨床検体 中のDNA、RNA、タンパクなどを解析して放射線治療抵抗性の原因究明とその克服法を開発している。 低酸素などの腫瘍内の微小環境が放射線治療効果に及ぼす影響・機能解明のための研究を推進する。 （手術療法・機器開発コース） 新規のがん早期発見マーカー、病態モニタリングマーカー、バイオマーカーが見出されており、血液を用いる新しい診断法の分野ができつつある。 がんの進展に関する分子機構の一端が明らかにされ、新たな治療標的の同定、治療法の開拓につながる研究が行われた。 機器開発に関して新しい分野の開拓につながるように様々な連携と共同研究を行った。 （がん専門薬剤師養成コース） がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。 また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。 さらに、抗がん剤の用量規定因子である末梢神経障害の新規治療・予防候補薬およびバイオマーカー探索を進めており、その成果に基づき、乳腺外科と協働でいくつかの臨床研究を開始した。 (医学物理士コース) H28年度にソフトウェア開発会社との共同で開発した放射線治療装置と患者の干渉を事前にチェックするソフトウェアを、他の種類の放射線治療装置でも利用可能なように拡張した。また、情報研究科との共同研究として、動体追尾放射線治療の精度向上のためのコーンビームCT用透視画像上から腫瘍位置を抽出するソフトウェア、及び日々の放射線治療の質の向上のための臓器統計形状モデルの開発に着手した。 三重大学: 急性骨髄性白血病に対するWT1を標的にしたTCR遺伝子改変T細胞輸注療法の臨床試験を行い、その成果をBlood誌（29年11月号）に報告している。また、現在、急性リンパ性白血病に対するCAR-T療法の臨床試験を実施中である。 肝臓癌をはじめとして、肺癌、腎臓癌に対するラジオ波治療、凍結療法を行っており、全国的にトップクラスの件数を集めている。 ミライ-S、ミライ-Gによるがん遺伝子パネル検査を実施し、エキスパートパネルを開催して、その結果についてのカウンセリングを行っている。若年がん患者の妊孕性温存のための卵巣保存の取り組みを始めている。 滋賀医科大学: ・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施し、履修者のOJT教育に生かしている。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端的がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・新しいがんゲノム医療の開発に向けて腫瘍内科と国内外の先端的がんゲノム医療・研究機関と共同研究体制を構築している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学： 1．在宅医療での多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成のため、地域医療機関、調剤薬局と三者で包括協定を締結し、履修学生教育プログラムを開始した。 2．ゲノム創薬のための遺伝統計学研究プラットホームの確立に向けた共同研究体制を立ち上げた。	

資料１

教育プログラム・コース別受入目標人数・入学者数・在学者数 （平成29年度）

区分		大学名・専攻名	コース名	修業年限	対象職種	受入目標人数						入学者数						在学者数				
						年度別					計	年度別					計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
						29	30	31	32	33		29	30	31	32	33						
① ゲノム医療従事者の養成						8	8	8	8	8	40	5						5	10	10	12	37
	1	京大・医学	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3						3	6	8	6	23
	2	京大・医学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1						1	2	1	1	5
	3	三重大・生命医科学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	0	0	3	3
	4	滋賀医科・医学	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0						0	1	1	0	2
	5	滋賀医科・医学	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	0	0	1	1
	6	大阪医科・医学	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1						1	1	0	1	3
② 希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成						8	8	8	8	8	40	4						4	4	3	4	15
	7	京大・医学	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	医師	2	2	2	2	2	10	0						0	0	0	0	0
	8	京大・医学	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3						3	3	2	4	12
	9	三重大・生命医科学	小児がん治療専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1						1	0	0	0	1
	10	滋賀医科・医学	小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	0	0	0	0
	11	大阪医科・医学	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	1	1	0	2
③ ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成						19	18	21	18	21	97	17						17	24	22	17	80
	12	京大・医学	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	医師	4	4	4	4	4	20	8						8	12	14	9	43
	13	京大・人間健康	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	2年 3年	理学療法士 作業療法士	1 0	1 1	1 1	1 1	1 1	5 4	1 0						1 0	0 1	0 1	0 2	1 4
	14	京大・医学・薬学	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年 4年	薬剤師	0 1	0 1	1 1	0 1	1 1	2 5	0 2						0 2	0 1	0 0	0 1	0 4
	15	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	4年 2年	医師 看護師	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	5 5	0 1						0 1	0 0	0 0	0 0	0 1
	16	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	4年 3年	医学物理士	1 1	0 0	1 1	0 0	1 1	3 3	0 0						0 0	0 0	1 0	0 0	1 0
	17	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1						1	1	1	1	4
	18	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	0	1	1	2
	19	三重大・生命医科学	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0						0	0	0	0	0
	20	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	2	1	2	5
	21	三重大・看護学	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	看護師	2	2	2	2	2	10	2						2	5	0	0	7
	22	滋賀医科・医学	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0						0	1	0	1	2
	23	大阪医科・医学	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1						1	1	2	0	4
	24	京都薬大・薬学	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	1						1	0	1	0	2
合計						35	34	37	34	37	177	26						26	38	35	33	132
（大学別内訳）			京都大学			19	18	21	18	21	97	19						19	25	27	23	94
			三重大学			8	8	8	8	8	40	4						4	8	3	7	22
			滋賀医科大学			4	4	4	4	4	20	0						0	2	1	2	5
			大阪医科大学			3	3	3	3	3	15	2						2	3	3	1	9
			京都薬科大学			1	1	1	1	1	5	1						1	0	1	0	2

資料２

「資格取得者数一覧」（29年度）

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	④受験・合格・資格取得者数														
			学会等認定資格名	H29			H30			H31			H32			H33		
				受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
計				15	15	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	1	1	0												
京都大学医学研究科医学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産婦人科専門医	0	0	1												
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	0	0	1												
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産科婦人科内視鏡技術認定医	1	1	0												
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医	0	0	1												
京都大学医学研究科医学専攻	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）	2	2	6												
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線科専門医（日本医学放射線学会）	0	0	1												
京都大学医学研究科医学専攻	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	外科専門医（日本外科学会）	0	0	2												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科専門医（日本消化器学会）	1	1	2												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	0	0	4												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	0	0	1												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器病学会専門医（日本消化器病学会）	0	0	1												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科指導医（日本消化器外科学会）	0	0	1												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	日本内視鏡外科学会　技術認定医（大腸）	1	1	0												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）	0	0	1												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	放射線診断専門医（日本医学放射線学会）	1	1	0												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	核医学専門医（日本核医学会）	1	1	0												
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	専門医（日本乳癌学会）	0	0	1												
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	日本血液学会認定血液専門医　（日本血液学会）	1	1	1												
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	外科専門医	2	2	2												
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	1	1	1												
三重大学医学系研究科看護学専攻	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	がん看護専門看護師　（日本看護系大学協議会）	2	2	2												
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	肝臓専門医（日本肝臓学会）	1	1	1												

資料 3

29年度　がんプロ履修生調査（要望・改善点）

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	現行のプログラムで満足しています。	外科治療・集学的診療コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	データセンターは臨床試験で必須なので、がんプロより費用捻出できるよう整備が必要と思います。	リハビリテーションスタッフコース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	いつもお世話になっております。要望などは特にございません。	リハビリテーションスタッフコース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナー：日々の研究発表において自分に不足しているものを認識できる貴重な機会でした。プログラムに学生同士の交流、ディスカッションの場が設けられるといいなと思います。	婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特にございません	外科治療・集学的診療コース
6	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外研究発表旅費助成を利用させて頂き、金銭的に非常に助かりました。深く感謝致します。	外科治療・集学的診療コース
7	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	昨年度は5大学連携医療フォーラムに参加することができ、短時間のうちで非常に多岐にわたるトピックスに触れることができ、非常に有意義であった。	外科治療・集学的診療コース
8	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成のおかげで積極的に国内外の学会に参加ができた。今後も同様の支援が受けられるとありがたい。	外科治療・集学的診療コース
9	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	大学院生の私にとって、研究発表旅費助成はありがたいです。	外科治療・集学的診療コース
10	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	今年も積極的に5大学連携してほしい。5大学連携の行事を増やすこと。海外研修もいければよいと考える。	医学物理士コース
11	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	「今後のがんプロのあり方等」 がんプロとの繋がりが強くなく、実際にどうアクセスすれば良いのかわかりにくい。	プレシジョン・メディシンがんゲノム医療コース
12	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	今年度研究発表旅費を助成させていただきました。研究を国内外に発信できる非常に良い機会を頂くことができ、満足しています。	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース
13	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	本年4月にAACRに参加し、ポスター発表を行った。AACRで得られた最新の知見や、日本の学会とはまた違った雰囲気に大変刺激を受け、今後の研究のモチベーションにもつながった。研究発表旅費助成により、特に国際学会への参加の助成が得られることは非常にありがたく、今後も支援を継続して頂ければと思います。	婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療コース
14	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	現在行っている基礎研究、臨床研究発表の際の補助、大学院卒後留学の際の補助の希望。	外科治療・集学的診療コース
15	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費の助成の採択件数枠がもう少しあると良いと思います。	外科治療・集学的診療コース
16	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	5大学連携　医療フォーラムについて　もう少し日程などを早めに告知いただければ助かります。	外科治療・集学的診療コース
17	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がん医療に携わる我々の研究をサポートしてくれるのは有難いです。特に大学院生は研究費が乏しいので、研究旅費助成は助かります。	外科治療・集学的診療コース
18	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learningなども学べて満足しています。海外学会発表助成もありとてもいいと思います。	外科治療・集学的診療コース
19	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同セミナーに参加させていただいた際には、とても貴重な経験をさせていただいたと感じました。英語で発表を行う機会を与えていただいたというだけではなく、海外ではどのような研究をしているのかや、向こうの学生さんとの交流を通じて、日本と海外の医療制度の違いなども学ぶことができました。また、「5大学連携、医療フォーラム」では他大学さんがどのような取り組みを行われているのかを知るいい機会であり、私の研究へのモチベーションアップにも繋がったと思います。今後も積極的にがんプロ事業に参加していこうと考えています。	がん専門薬剤師コース

20	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成によって、特に国際学会に積極的に発表・参加できるようになったことから引き続き支援を継続を希望したい。また5大学連携　医療フォーラムでも他大学との医療交流や情報交換の場となっており満足している。	婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療コース
21	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平素の非常に充実したご支援に大変感謝しております。学会発表状況だけでなく、その後の論文化実績を次年度の採用における評価項目として重視いただければ励みになります。	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース
22	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	助成申請を提出済み。大変お世話になっており、対応等について要望や改善点などございません。	外科治療・集学的診療コース
23	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニング講義では、多領域におけるがんに対する様々な治療や支援を知る機会となり、興味深く学ばせていただきました。	リハビリテーションスタッフコース
24	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特に不満点はない	がん専門薬剤師コース
25	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成は学生の国際学会での発表を後押しする非常に有難い制度だと思う。Eラーニング講義は非常に科目数が多く、その充実ぶりに満足している。	がん専門薬剤師コース
26	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成、海外合同教育セミナーは今後も継続を希望します。またE-ラーニング講義は現状もよいと思いますが、昨年までの様々な大学教員の講義を聴講できたのもよかったので、並存してもらえればいいかと思います。	外科治療・集学的診療コース
27	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	概ね満足しております。3月のENETS(European Neuroendocrine Tumor Society) Conferenceに例年参加・発表していますが、旅費助成の対象期間外となっています。3月の学会に対する助成についてもご検討頂けるとありがたく存じます。	外科治療・集学的診療コース
28	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	29年度の海外発表が自身初の海外学会参加であって、現地における英語を用いた討論の鍛錬を積むことができ、貴重な研修の機会を頂きました。研究発表旅費助成は学生の海外発表の活性化に働きますので全額でなくても継続頂けましたら有り難く思います。	外科治療・集学的診療コース
29	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成によって、特に国際学会に積極的に発表・参加できるようになったことから引き続き支援を継続を希望したい。また5大学連携　医療フォーラムでも他大学との医療交流や情報交換の場となっており満足している。	婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療コース
30	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成に関して、大変有難い制度であると感じており発表へのモチベーションも向上します。今後もぜひ継続していただきたくお願い申し上げます。	外科治療・集学的診療コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望・改善点、満足店）	大学院の学生による授業評価によれば、がん看護に関する講義および実習は、5段階で最も高い5点であった。特に改善すべき点として挙がるものはなかったが、今後も社会人学生であることを配慮して教育を続けたい。	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平成30年度3月に海外合同教育セミナーに参加させていただきましたが、平成29年度内からその準備に多大なるご尽力をいただき大変感謝しております。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナー、5大学連携医療フォーラムはいずれも魅力的な事業であり、機会があれば今後参加したいと思った。 E-ラーニング講義が有用であった。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成を支援いただき、学会発表が可能となり大変感謝しております。今後、論文発表に関しても掲載料等の支援をいただけると助かります。	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特に要望などはありません。満足しております。	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究遂行に際して有用なセミナー（医学統計や研究デザインの理解を深めるセミナー）の紹介や斡旋があればより良いと思います。 他大学との交流の機会がより増えると良いと思います。	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平成29年度は学会や研修に参加でき有意義な情報をたくさん得ることができ満足しています。今後も学会や研究活動を金銭的な面で支援していただけると非常にありがたいです。社会人学生にとっては時間的な余裕がほとんどないのが実情です。	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース

【大阪医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	5大学での海外研修は非常に刺激になり、良い経験となりましたが、研修直前に事務局が行うことになっていた航空券の手配などが参加者自身がすることになり、あわただしく思いました。あらかじめ事務局が行うことが出来ないなら、そのように伝えておいてくだされればもっとスムーズに準備ができたと思いました。	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	Eラーニング講義はネット環境があればどこでも観れるので、勝手が良いです。	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナーとしてアメリカテキサス州のMDアンダーソンがんセンターの見学ならびにセンターのドクターに研究内容を発表させていただきました。最先端のがん治療を行っている施設を訪問させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。また、ドクターから研究についてのアドバイスもいただくことができ、今後の研究の参考になりました。大変充実した研修でした。あえて希望を申しますと、もう少し見学の期間を長く設けていただけましたら、より多くの情報が得られたかと思っております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	様々なセミナーを開いていただき、見識を深めることができた。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

資料 4

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任						設置年月
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教	その他	
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1）化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2）化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
				[実施] 教授1（専任）、准教授1（専任）、助教1（専任）、助教2（兼任）	5	3	1	1		1		2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、講師(専任・兼任)各2名、助教(兼任)1名	6	3	1		2			3			2	1		

資料 5

セミナー・シンポジウム等の開催状況（平成29年度）

※「参加大学数」は、京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）以外の大学等を示す。
※「学内参加者数」は、主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時】										
1	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」	京都大学	1	120	0	1	52	6	1	0
2	がんプロ5大学連携合同教育セミナー	京都大学	1	35	0	1	12	0	0	0
3	がんプロ腫瘍セミナー	京都大学	2	50	0	2	57	134	8	0
4	がんプロ特別講演	京都大学	4	160	0	1	20	37	0	0
5	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」	京都大学	1	220	1	1	4	181	1	0
6	がんリハビリテーション特別講演	京都大学	2	70	0	1	31	12	3	2
7	京都がん研究会	京都大学	2	100	0	1	60	5	0	0
8	京都乳がん市民公開講座	京都大学	1	50	0	1	4	30	0	0
9	骨転移セミナー	三重大学	1	50	0	1	35	10	0	0
10	早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	50	0	1	57	21	0	0
11	医科歯科連携推進人材養成研修会	三重大学	1	120	0	1	15	55	0	0
12	緩和ケアセミナー	三重大学	1	60	0	3	100	132	0	0
13	がんチーム医療研究会	三重大学	1	90	0	1	45	53	0	0
14	膵がん撲滅パープルリボンウオーク・セミナー	三重大学	1	100	0	1	0	600	0	0
15	三重がん看護フォーラム	三重大学	1	100	1	1	39	56	3	0
16	三重大ELNECコアカリキュラム	三重大学	1	80	1	1	4	57	1	0
17	三重がん看護専門看護師会議	三重大学	6	90	1	6	24	58	1	0
18	滋賀がん医療講演会	滋賀医科大学	2	40	0	3	76	56	0	0
19	滋賀がん市民公開講座	滋賀医科大学	3	30	0	6	9	132	0	0
20	滋賀がん医療啓発フォーラム	滋賀医科大学	1	80	0	1	5	165	0	0
21	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	滋賀医科大学	1	100	0	3	37	323	0	0
22	滋賀県薬物療法conference	滋賀医科大学	2	60	0	3	21	71	0	0
23	若年がんを考える会	滋賀医科大学	2	40	0	1	17	15	0	0
24	市民公開講座(乳がんまたは消化器がん)	滋賀医科大学	1	120	0	1	19	135	0	0
25	滋賀癌化学療法研究会	滋賀医科大学	1	50	0	1	8	56	0	0
26	三島医療圏がん診療ネットワーク協議会	大阪医科大学	2	70	0	2	26	30	0	0
27	三島圏域がん研究会	大阪医科大学	2	200	0	3	82	259	3	0
28	大阪医科大学　市民公開講座	大阪医科大学	1	70	0	1	20	100	0	0
29	薬剤師卒後セミナー	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	0	0
30	薬学研究者養成セミナー（下記31と同時開催）	京都薬科大学	1	50	0					
31	がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	京都薬科大学	1	50	0	1	61	4	0	0
32	市民公開講座	京都薬科大学	1	100	0	1	57	77	1	0
33	地域医療機関との合同セミナー	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	0	0
	No1～33の計		49	2,605	4	52	997	2,870	22	2

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時以降】										
34	関西がんリハビリテーション研究会	京都大学				1	5	73	0	0
35	関西婦人科腫瘍・病理談話会	京都大学				1	9	55	8	0
36	地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース	京都大学				1	15	66	2	0
37	近畿地区3拠点合同フォーラム	京都大学				1	38	20	6	0
38	高精度放射線治療ワークショップ	京都大学				1	21	0	0	0
39	がん薬物療法セミナー	三重大学				3	127	20	0	0
40	三重肺癌研究会	三重大学				2	21	33	0	0
41	三重リンパ腫フォーラム	三重大学				2	39	37	0	0
42	三重乳腺診断フォーラム	三重大学				1	17	70	0	0
43	三重メディカル・オンコロジー・フォーラム	三重大学				1	28	26	0	0
44	三重県産婦人科腫瘍研究会	三重大学				1	17	15	0	0
45	骨髄腫セミナー in MIE	三重大学				1	14	4	0	0
46	三重泌尿器科臨床セミナー	三重大学				1	7	15	0	0
47	がん化学療法時の口腔管理	三重大学				1	5	103	0	0
48	Mie Breast Cancer Seminar	三重大学				1	10	25	0	0
49	いま学校で始まるがん教育	三重大学				1	34	29	0	0
50	骨髄セミナー in MIE	三重大学				1	15	9	0	0
51	三重乳腺疾患治療研究会	三重大学				1	10	13	0	0
52	血液腫瘍フォーラム	三重大学				1	27	5	0	0
53	Mie Gynecologic Oncology Abend	三重大学				1	12	17	0	0
54	Current Trend of Immunotherapy in MIE	三重大学				1	12	15	0	0
55	市民公開講座「がんの在宅医療について」	三重大学				1	0	748	0	0
56	三重がん放射線治療研究会	三重大学				1	18	45	0	0
57	Mie T790M Test Forum	三重大学				1	11	20	0	0
58	第1回三重県がん生殖医療研究会	三重大学				1	44	47	0	0
59	三重がん生殖研究会	三重大学				1	41	11	0	0
60	東近江医療圏がん診療市民公開講座	滋賀医科大学				2	18	144	0	0
61	がん免疫療法カンファレンスin滋賀	滋賀医科大学				1	14	26	0	0
62	緩和ケア講演会in滋賀	滋賀医科大学				1	8	68	0	0
63	リレー・フォーライフージャパン滋賀医大	滋賀医科大学				1	100	600	0	0
64	ハイリスクがん患者　がん薬物療法セミナー	滋賀医科大学				1	10	89	0	0
65	創薬科学フロンティア研究センター講演会	京都薬科大学				1	101	3	1	1
	No34～65の計					37	848	2,451	17	1
	合　計		49	2,605	4	89	1,845	5,321	39	3

資料 6

平成29年度　インテンシブコース実施事業

（　）の数字は参加人数

【京都大学】

高度放射線治療を担う人材養成コース（インテンシブ）	
18/03/01	高精度放射線治療ワークショップ（21）
17/09/30	第44回京都放射線腫瘍研究会プログラム（99）
18/03/03	第45回京都放射線腫瘍研究会プログラム（92）

地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（インテンシブ）	
17/11/22	第2回　2025年に向けた薬剤師業務研究会 in 京都（74）
18/02/17	第１回地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（81）

様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース（インテンシブ）	
17/10/31～11/1	がんチーム医療研修会（12）
17/11/28～29	がんチーム医療研修会（12）
17/12/12～13	がんチーム医療研修会（12）
18/1/16～17	がんチーム医療研修会（9）
18/2/6～7	がんチーム医療研修会（12）
18/3/6～7	がんチーム医療研修会（12）

家族性腫瘍（遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など）に対応できる医療人育成コース（インテンシブ）	
17/11/23	第9回関西婦人科腫瘍・病理談話会（54）

ビックデータ医科学を担う人材育成コース（インテンシブ）	
17/11/19	第30回（2017年）健康科学市民公開講座　ITが医療を変える―地域完結型医療の現在と未来－（107）

【三重大学】

地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	
17/08/06	平成29年度 第1回がん薬物療法における薬薬連携研修会（123）
18/01/28	平成29年度 第2回がん薬物療法における薬薬連携研修会（108）

ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）	
17/6/10～11	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（2日間）（33名）多職種
17/8/26～27	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（2日間）（13名）多職種

17/11/5,19, 12/5	対人援助・スピリチュアルケア研修①(3日間)(4名) 多職種
17/12/3, 17	対人援助・スピリチュアルケア研修②(2日間)(7名) 多職種
18/01/08	緩和ケアフォローアップ(チーム)研修 (58名) 多職種
17/07/27	緩和ケアセミナー(111名) 多職種
17/10/19	緩和ケアセミナー(76名) 多職種
18/01/18	緩和ケアセミナー(94名) 多職種

【滋賀医科大学】

ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース(インテンシブ)	
17/06/28	平成29年度第1回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
17/07/19	滋賀医科大学医学部附属病院 平成29年度第1回腫瘍センター講演会
17/08/24	がん免疫療法カンファレンス in 滋賀
17/08/29	平成29年度第2回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
17/09/26	滋賀医科大学医学部附属病院 平成29年度第2回腫瘍センター講演会
17/09/29	平成29年度第3回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
17/10/31	平成29年度第4回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
17/11/03	第7回東近江医療圏がん診療市民公開講座
17/11/21	滋賀医科大学医学部附属病院 平成29年度第3回腫瘍センター講演会
17/11/29	平成29年度第5回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
18/01/21	第8回東近江医療圏がん診療市民公開講座
18/01/25	平成29年度第6回 'がんを学ぼう' 市民公開講座
18/02/27	緩和ケア講演会 in 滋賀

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師コース(インテンシブ)	
17/11/19	第16回滋賀県がん薬物療法 conference
17/12/02	第16回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース
17/12/19	第1回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー
18/02/24	第17回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース
18/02/27	緩和ケア講演会 in 滋賀
18/03/07	第17回滋賀県がん薬物療法 conference

資料 7

医療チームの整備体制（平成29年度）

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	原発不明がん／ 希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」	血液腫瘍に関するチーム医療	
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん療法	
京都大学	家族性腫瘍ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療	
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療	
京都大学	内分泌細胞 腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療	
京都大学	クリニカルシークエンス ユニット	「化学療法」 「その他」	遺伝子解析に基づくゲノム医療に関するチーム医療	
京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」 「その他」	免疫チェックポイントに阻害剤に関するチーム医療	
京都大学	放射線治療 医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践	
京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理	
京都大学	緩和ケアチーム ユニット	「緩和ケア」	診療科横断的かつ職種横断的診療と支援	
京都大学	脳腫瘍／ 小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科合同による集学的がん診療	
京都大学	食道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科、耳鼻科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	肺がん/ 中皮腫ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	乳がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、外来科学療法部、放射線治療科、放射線診断科、病理診断部、集学的がん診療部からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	膵臓がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	肝胆膵・移植外科、消化器内科、放射線治療科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	大腸がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化器内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	前立腺がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
三重大学	口腔ケアチーム	「緩和ケア」	がん治療前の口腔ケア	

大学名	名称	分類	活動内容	備考
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療 麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後 検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	
三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同 移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療	
大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	

資料 8

キャンサーボードの体制（平成29年度）

【京都大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	泌尿器科 放射線治療科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍 脊髄腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医　放射線治療医　小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科 腫瘍内科	◎乳腺外科医　放射線治療医　放射線診断医　　腫瘍内科医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 腫瘍内科	◎消化管外科医、腫瘍内科医、消化器内科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がん・中皮腫ユニットカンファレンス	肺がん 胸膜中皮腫 縦隔腫瘍	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科 腫瘍内科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵臓がんユニットカンファレンス	膵臓がん	肝胆膵・移植外科 放射線治療科 放射線診断科 消化器内科 腫瘍内科 緩和医療科 遺伝子診療部	◎腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頚部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、放射線治療医、腫瘍内科医	新規患者の検討をする。	全例実施
8	胃がん・GISTユニット	胃がん 消化管間質腫瘍（GIST）	腫瘍内科 消化管外科 消化器内科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
9	大腸がん	大腸がん	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 肝胆膵・移植外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医、肝胆膵移植外科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科 小児外科 病理診断科 整形外科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 放射線治療科 眼科 呼吸器外科 精神科	◎小児科医、小児外科医、病理診断科医、整形外科医、耳鼻科医、泌尿器科医、放射線治療医、眼科医、呼吸器外科医、整形外科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明がん・希少がんユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん	腫瘍内科 消化器内科 病理診断科 小児科 呼吸器内科 産科婦人科 放射線治療科 放射線診断科 肝胆膵・移植外科 消化管外科 乳腺外科 整形外科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、病理診断科医、小児科医、呼吸器内科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、肝胆膵移植外科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
12	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 乳腺外科 放射線治療科 泌尿器科 リハビリテーション科	◎整形外科医、乳腺外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満
13	緩和ケアチームユニットカンファレンス	全種	緩和医療科 精神科 腫瘍内科	◎緩和ケア医、精神科医、腫瘍内科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎：リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
14	NET（内分泌細胞腫瘍）ユニットカンファレンス	内分泌細胞がん	肝胆膵・移植外科 腫瘍内科 消化器内科 放射線診断科 糖尿病・内分泌・栄養内科 呼吸器外科 消化管外科 放射線治療科 病理診断科	◎肝胆膵移植外科医、腫瘍内科医、消化器内科医、放射線診断科医、内分泌代謝内科医、呼吸器外科医、消化管外科医、放射線治療医、病理医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
15	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん 標準治療に抵抗性となった固形がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部 肝胆膵・移植外科 泌尿器科 産科婦人科 放射線治療科 消化器内科 消化管外科 乳腺外科 整形外科 放射線診断科	◎腫瘍内科医、病理医、臨床遺伝専門医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科、放射線診断医、遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャン、ゲノム基礎研究者	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 腫瘍内科 産科婦人科 遺伝子診療部 薬剤部	◎皮膚科医、腫瘍内科医、病理診断医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
17	婦人科腫瘍ユニットカンファレンス	子宮頚がん 子宮体がん 卵巣がん	産科婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
18	血液腫瘍ユニットカンファレンス	造血器腫瘍	血液内科 放射線治療科	◎血液内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
19	胆道がんユニットカンファレンス	胆道がん	肝胆膵・移植外科 臓器移植医療部 消化器内科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎肝胆膵移植外科医、消化器内科医、腫瘍内科医、放射線診断医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施

【三重大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎：リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	乳癌治療検討会	乳癌	放射線科　腫瘍内科 乳腺外科	◎乳腺外科医　腫瘍内科医　放射線治療医 薬剤師　看護師	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	全例実施
2	乳腺疾患術後検討会	乳癌	病理　乳腺外科	◎乳腺外科医　病理医	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	全例実施
3	乳房再建検討会	乳癌	形成外科　乳腺外科	◎乳腺外科医　形成外科医	1回/月、形成外科、乳腺外科で乳房再建予定症例について検討	全例実施
4	がんゲノム医療エキスパートパネル	特定なし	検査部、遺伝子診療科、病理部、腫瘍内科、耳鼻科、消化器内科、消化管外科、産婦人科、看護部	◎医師、看護師、遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータのディスカッション	

【滋賀医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎：リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科　消化器内科 消化器外科　乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、呼吸器内科医、消化器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科　呼吸器外科 呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病　リンパ腫	血液内科　小児科	◎血液内科医、血液内科ローテーター、小児科医	移植予定者について前処置薬の検討および移植後患者についての経過報告をする。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科　薬剤部　検査部　輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬剤師、血液検査技師、薬剤部検査技師	全ての入院症例の経過報告と問題点を検討する。	全例実施

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科　放射線科　薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母子・女性診療科医、放射線治療医、	新規入院患者、外来初診患者の治療方針、術式の検討および経過報告をする。	全例実施
6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺・一般外科	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、学生	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌　胃癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器外科医、消化器内科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	75%以上-100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
10	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科、放射線科、病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、放射線治療医、近隣病院の乳腺科医、放射線科医、放射線技師	乳癌患者の診断、治療方針を検討する	50%以上-75%未満実施
11	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治療方針、治療経過ならびに外来患者の治療方針について評価報告する	全例実施
12	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療方針につき討議する。主な外来抗癌療法患者について評価する。	全例実施
13	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科　　放射線科	◎耳鼻咽喉科長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部癌の治療方針や治療経過について検討、評価する。	全例実施
14	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療新規患者の照射範囲・線量の確認や治療中患者の治療方針について検討する。	全例実施
15	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫瘍	腫瘍内科　腫瘍センター　精神科　薬剤部　看護部	◎腫瘍内科長・腫瘍センター長、腫瘍内科医、精神科医、がん診療全科医、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
16	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	◎歯科口腔外科医、精神科医認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	高齢患者の治療後の療養施設決定のための検討、評価を行う	全例実施
17	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、皮膚原発悪性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患者の治療方針を決定する。	全例実施
18	骨転移カンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 放射線科	◎整形外科医、放射線科医、乳腺一般外科医、消化器外科医、血液内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、母子女性科医、耳鼻咽喉科医、	骨転移患者の治療方針を決定する	50%以上-75%未満実施
19	小児血液腫瘍多職種カンファレンス	小児血液腫瘍	小児科　看護部　薬剤部　栄養治療部　リハビリテーション部	◎小児科医、整形外科医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士	小児血液腫瘍患者の新規入院症例と問題の多い症例を多職種で検討する	全例実施
20	キャンサーボード	原発不明癌	腫瘍センター、呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、消化器内科、放射線科、整形外科、腫瘍内科、病理部、看護部	◎消化器外科医、消化器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、放射線科医、整形外科医、腫瘍内科医、病理医、医学生、研修医、看護師	大腸癌術後、多発肺腫瘍、多発リンパ節腫瘍のある原発不明の淡明細胞癌症例に対する、分子標的薬治療の妥当性について	25%未満実施

【大阪医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	第10回　若いがん患者の妊孕性温存	婦人科がん	婦人科	◎産婦人科の医師、看護師	症例検討	
2	がんセンター定例会	脳原発immature teratoma	脳外科	◎脳神経外科、小児科、病理学、呼吸器腫瘍内科、化学療法センター、放射線診断科、放射線治療科の医師、薬剤師、診療情報管理師	脳原発immature teratoma。化学療法・放射線治療後に根治手術をされたが局所再発	
3	がんセンター定例会	左上眼瞼皮膚血管肉腫	皮膚科、婦人科	◎化学療法センター、呼吸器腫瘍内科、皮膚科、形成外科、産婦人科、放射線診断科、放射線治療科、病理学の医師、薬剤師、看護師、診療情報管理士	左上眼瞼皮膚血管肉腫、子宮頚部横紋筋肉腫	

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎：リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
4	がんセンター定例会	スキルス胃癌	産婦人科	◎化学療法センター、産婦人科の医師、薬剤師、看護師	スキルス胃がん疑い	
5	がんセンター定例会	膀胱がん	腎泌尿器外科	◎腎泌尿器外科、化学療法センター、消化器外科、頭頸部外科、病理学、呼吸器腫瘍内科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、看護師、薬剤師	頭頸部外科からの依頼で、腎泌尿器外科入院中の四重癌の治療方針	
6	がんセンター定例会	悪性リンパ腫	総合診療科	◎総合診療科、放射線診断科、病理学、腎泌尿器外科、血液内科、化学療法センター、呼吸器腫瘍内科の医師	両副腎より発生した悪性リンパ腫で副腎不全を併発した	
7	がんセンター定例会	子宮内膜間質肉腫	婦人科	◎婦人科、リハビリ、化学療法センター、整形外科、放射線診断科、放射線治療科の医師、薬剤師、診療情報管理師	子宮内膜間質肉腫（高悪性度型）再発	
8	がんセンター定例会	左乳腺原発低分化がんの根治手術後早期の局所再発	乳腺・内分泌外科	◎乳腺・内分泌外科、化学療法センター、消化器内科、放射線診断科、治療科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理師	左乳腺原発低分化がんの根治手術後早期の局所再発	
9	がんセンター定例会	子宮原発の横紋筋肉腫の術後症例	婦人科	◎化学療法センター、婦人科、整形外科、病理診断科、小児科、皮膚科、放射線治療科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理	子宮原発の横紋筋肉腫の術後症例	
10	がんセンター定例会	嗅神経芽細胞腫　悪性黒色腫	耳鼻咽喉科	◎耳鼻咽喉科、化学療法センターの医師、薬剤師、看護師	嗅神経芽細胞腫　悪性黒色腫	
11	転移性骨腫瘍キャンサーボード	転移性骨腫瘍	整形外科、放射線診断科、治療科	◎医師、看護師	転移性骨腫瘍	
12	Lung Diseaseカンファレンス	胸部悪性腫瘍・転移性肺腫瘍・原発不明がん	呼吸器外科・呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・放射線科・病理診断科	◎呼吸器外科・呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・放射線科・病理診断科の医師・緩和ケアチーム医師	新患症例検討	
13	脳外科放射線科カンファレンス	原発性脳腫瘍・転移性脳腫瘍	脳外科・放射線治療科	◎脳外科医師・放射線治療科医師	症例検討（放射線治療の適応について。初回治療・再照射を含む）	
14	頭頸部カンファレンス	頭頸部悪性腫瘍	頭頸部外科・放射線治療科	◎頭頸部外科医師・放射線治療科医師・病棟看護師	症例検討（放射線治療の適応について。初回治療・再照射を含む）	

資料 9

プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
2	膵癌、胆道癌における遺伝子異常の網羅的解析と治療薬開発	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
3	膵神経内分泌癌及び膵MANECの遺伝子異常の網羅的解析	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
4	「腹腔鏡手術トレーニグ装置"追いトレアドバンス"の教材作成」	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
5	「発光尿管カテーテル（IRIS)を使用した低位直腸癌手術における尿道ナビゲーション」	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
6	「腹腔鏡下大腸手術における術中ナビゲーションの位置精度の評価」	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
7	平成29年度日本補体学会委託研究「補体制御による劇症肝炎/急性肝不全における病態解明と新規治療法の開発」（研究代表者：秦浩一郎）の原稿作成	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
8	AMED（肝移植後微小血管障害症に対する補体制御の有効性に関する医師主導型第Ⅱ/Ⅲ相治験）（研究代表者：上本伸二）の事後報告書の原稿作成	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
9	Shire Grant（ADAMTS13 in critical liver diseases）研究代表者：秦浩一郎）の原稿作成	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
10	「C1330腹腔鏡肝切除における蛍光ナビゲーション手術の有用性の検討」の研究計画書作成	外科治療・集学的診療コース	西野　裕人
11	臨床研究「肝切除手術における術後90日死亡予測のための適切な評価方法の探索」新規申請プロトコール作成	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
12	JGOG1082（第3相試験）　実施に向けてプロトコール作成に関与	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	浮田　真沙世
13	『乳房温存療法における加速部分乳房照射法の安全性と有効性評価のための臨床研究』症例追跡	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
14	『乳房温存療法における寡分割同時ブースト全乳房照射法の安全性評価のための臨床試験』症例集積、治療計画作成、症例追跡	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
15	『乳房温存療法における放射線治療での体表マーカーレス化に向けた治療の高精度化に関する研究』プロトコール立案・作成、症例集積、治療計画作成、症例追跡	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
16	消化器癌に対する放射線治療が骨盤骨・椎骨の骨折リスクに与える影響を評価する研究	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	藤井　康太
17	「術前MRI画像を用いた低位直腸癌手術の短期成績の予測」プロトコル作成。現在倫理委員会提出と計測実施中。	外科治療・集学的診療コース	喜安　佳之
18	自己免疫性膵炎と膵癌の鑑別診断に関する後ろ向き研究	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
19	大腸癌肝転移症例に対するプロテオミクス解析を用いた肝SOSに特異的なバイオマーカー探索に関する研究	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
20	直腸腫瘍に対する経肛門的直腸間膜全切除術後の合併症、QOLおよび機能的予後に関する国際共同前向き研究	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔

21	「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」研究登録症例における追加調査	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
22	局所切除後直腸SM癌の治療方針に関する症例集積研究	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
23	C1163　フレキシブルPET装置を用いたPET画像の画質・定量性の検討 2016/7/1-2018/3/31	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
24	C1327　PSMAを標的とするPETプローブ 18F FSU-880の初期臨床評価：安全性、体内動態、被曝線量、前立腺癌病巣への集積性の検討　2017/12/18-2018/3/31	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
25	高リスク前立腺癌に対する腫瘍内ブースト併用高度寡分割ダイナミックウェーブアーク照射の安全性評価のためのパイロット臨床試験　プロトコール作成	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
26	MRI診断能に関する研究 京都大学外科関連施設における大腸癌手術治療成績の検討	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
27	「局所進行直腸癌に対する再発危険因子に応じた至適治療の検討」（後ろ向き研究）プロトコル執筆、2018年3月倫理委員会にて承認（承認番号：R1404）	外科治療・集学的診療コース	山本　健人
28	BBBプロトコルの臨床研究に参加した(乳腺外科との共同研究)。	がん専門薬剤師コース	小柳　円花

【三重大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	乳房温存術後残存乳房形態の経時的変化に関する研究　プロトコル作成	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	膵頭十二指腸切除術後におけるプロカルシトニン値による感染性合併症予測の検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
2	膵癌術後における筋肉量変化と予後との関連性の検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
3	術前治療後膵癌切除例の予後予測因子に関する臨床病理組織学的後ろ向き観察研究	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
4	慢性膵炎による難治性疼痛に対する内科的インターベンション治療と外科治療の比較解析　-多施設共同前向き実態調査-	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
5	膵癌切除症例における短期・長期成績と臨床病理学的因子の関連性の検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
6	膵切除症例における術後合併症発生と臨床病理学的因子の関連性の検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
7	Impact of prior bortezomib therapy on the incidence of lenalidomide-induced skin rash in multiple myeloma: a propensity score-matched multi-institutional cohort study.	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史

【大阪医科大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	切除不能進行胃癌に対するTS-1+オキサリプラチン（L-OHP）+イリノテカン（CPT-11）	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜

資料 10

国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 「AACR Annual Meeting 2017」「The genetic aberrations in carcinogenic sequence of colitis-associated cancer」「2017/4/5」(筆頭発表)	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内 伸之
2	学会等発表 「European Society for Medical Oncology 2017 Congress.」「 Pharmacokinetics and safety of FOLFOX therapy in patients undergoing hemodialysis. 」「10 September 2017」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	船越 太郎
3	学会等発表 「The 1st Asia Pacific Occupational Therapy Symposium. 」「Effects of Cryotherapy on Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Breast Cancer Patients: A Prospective Self-Controlled Clinical Trial. 」「2017Oct 」 (筆頭発表)	リハビリテーションスタッフ コース	華井 明子
4	学会等発表 「The European Society for Medical Oncology Asia 2017 Congress. 」「Effects of steroid ointment application on chemotherapy-induced phlebitis: A randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial.」「2017Nov」(共著発表)	リハビリテーションスタッフ コース	華井 明子
5	学会等発表 「ELSA 13th Asia-Pacific Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgery：Three Steps Technique of Transanal ISR Based on the Surgical Anatomy of Male,2018.Nov.16-18・(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	岡田 倫明
6	学会等発表 「第15回アジア移植学会、Postoperative Low Platelet Count and Elevated Total Bilirubin Impact the Mortality and Morbidity in Living-donor Liver Transplantation、2017.11.27-30(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	日下部 治郎
7	学会等発表 The 9th Meeting of 5 Asian LDLT Centers, Postoperative Thrombocytopenia (< 2 weeks) Determines the Fate of Adult LDLT: Proposal of "LTx-TMA". 21st Oct. 2017, Kyoto, Japan. (共著発表)	外科治療・集学的診療コース	日下部 治郎
8	学会等発表 「The 18th Congress of the European Society for Organ Transplantation (ESOT)」「Hydrogen Perfusion after Cold Storage; A New, Simple, and Non-invasive Graft Conditioning for Ameliorating Hepatic Ischemia/Reperfusion Injury? 」「24-27 Sep. 2017, Barcelona, Spain.」 (共著発表)	外科治療・集学的診療コース	日下部 治郎
9	学会等発表 「15th Congress of the Asian Society of Transplantation (CAST)」「 Bortezomib against Post-operative Antibody-Mediated Rejection in ABO-incompatible Living-Donor Liver Transplantation: Report of a Successful Case. 」「27-30 November 2017, Cebu, Philippines. 」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	日下部 治郎
10	学会等発表 18th Congress of the European Society for Organ Transplantation Full oral session "HYDROGEN PERFUSION AFTER COLD STORAGE; A NEW, SIMPLE, AND NON-INVASIVE GRAFT CONDITIONING FOR AMELIORATING HEPATIC ISCHEMIA/REPERFUSION INJURY?" 2017.9.24-27(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	玉木 一路
11	学会等発表 52th European society for surgical research Full oral session Hydrogen Perfusion after Cold Storage; A New, Simple, and Non-invasive Post-Conditioning for Ameliorating Hepatic Ischemia/Reperfusion Injury? 2017.6.14-17(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	玉木 一路
12	学会等発表 15th ENETS conference 2018, "A case of rectal abscess emerged immediately after starting chemotherapy with everolimus and required surgical drainage"2018/3/7-9, Barcelona (Spain)(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	仲野 健三
13	学会等発表 Annual Global Academic Programs (GAP) 2017 Innovative real-time navigation for liver surgery using active projection mapping with ICG fluorescence: Application to anatomic and partial liver resection. 29年5月 (筆頭著者)	外科治療・集学的診療コース	西野 裕人
14	学会等発表 ESTRO36, 「Establishment of patient-specific quality assurance procedure for Dynamic WaveArc delivery technique」, 2017/5, (筆頭発表)	医学物理士コース	平島 英明
15	学会等発表 The 8th Japan-Korea Joint Meeting on Medical Physics, 「Dosimetric evaluation of dose reporting modes in patient-specific QA using 3D helical diode array」, 2017/9, (筆頭発表)	医学物理士コース	平島 英明
16	学会等発表 [ESTRO36]「Dose reduction of femoral heads using volumetric-modulated Dynamic WaveArc for prostate cancer」[2017/5](共著発表)	医学物理士コース	平島 英明
17	学会等発表 [ESTRO36]「Volumetric-modulated Dynamic WaveArc therapy reduces the doses to the hippocampus」[2017/5」 (共著発表)	緩和ケアコース	平島 英明
18	学会等発表 ESTRO(European Society for radiotherapy and oncology), Dosimetric evaluation of Dynamic WaveArc Therapy for accelerated partial breast irradiation	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	小野 幸果

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
19	学会等発表 「American Society of Radiation Oncology 59th Annual Meeting」「Evaluation of Knowledge-Based versus Manual Treatment Planning of Whole-Pelvic Volumetric Modulated Arc Therapy with Simultaneous Integrated Boost for Node-Positive Prostate Cancer」「平成29年9月」(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	藤井　康太
20	学会等発表 「American Associatin for Cancer Research」「VEGFA/NRP1 signal contributes to filopodia formation in breast cancer cells」「2017.4」「共著発表」	外科治療・集学的診療コース	田中　直
21	学会等発表 European Congress of Radiology 2018；Detection of pancreatic cancer from tumor associated pancreatitis using computed DWI. 2018年3月（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
22	学会等発表 Digestive Disease Week、Validation and modifying of Japanese grading system for liver metastases from colorectal cancer、2017/5/6	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
23	学会等発表 5th Annual International Congress of Fluorescence Guided Surgery、Visualization of Perfusion Area in Living Donor Liver Transplantation Using Fluorescence Imaging、2018/2/14	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
24	学会等発表 SNMMI 2017 Annual Meeting　Watanabe M, Nakamoto Y, Nakamoto R, Ishimori T, Togashi K. Lesion detection rate and image quality of a newly-developed mobile PET scanner according to three different layouts of detectors.　Denver Convention Center, Denver, CO. USA, 2017/6/13（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
25	学会等発表 The 13th Hangzhou International Molecular Imaging Conference (HIMIC) 2017　Watanabe M. Lesion detection rate, image quality and quantitative analysis of a newly-developed mobile PET scanner according to three different layouts of detectors.　Hangzhou, China, 2017/10/21（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
26	学会等発表 「Genitourinary Cancers Symposium」「Long-term outcomes of intensity-modulated radiation therapy combined with neoadjuvant hormonal therapy for Japanese patients with non-metastatic prostate cancer.」「2018/2/8-10」	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
27	学会等発表 「第47回北米神経科学学会年会・ニューロサイエンス2017」、「Direct impairment of Schwann cells by taxanes and platinum derivatives is associated with etiologic mechanisms underlying chemotherapy-induced peripheral neuropathy」、「平成29年11月」(筆頭発表)	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
28	学会等発表 「2018 11th East Asian Forum of Nursing Scholars」「Male Nurses' Perceptions of their Work Environment)」「2018年1月12日」(筆頭発表)	緩和ケアコース	加藤　慎太郎
29	論文発表 ESMO Open. Chemotherapy in cancer patients undergoing haemodialysis: a nationwide study in Japan. 2018 Feb 23;3(2):e000301（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	船越　太郎
30	論文発表 「Supportive Care in Cancer」「Changes in upper extremity function, ADL, and HRQoL in colorectal cancer patients after the first chemotherapy cycle with oxaliplatin: A prospective single-center observational study」「2018年1月Accept／2018年2月Open Access」(筆頭発表)	リハビリテーションスタッフコース	田畑　阿美
31	論文発表 The 1st Asia Pacific Occupational Therapy Symposium. Effects of Cryotherapy on Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Breast Cancer Patients: A Prospective Self-Controlled Clinical Trial. 2017Oct (筆頭)発表	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
32	論文発表 The European Society for Medical Oncology Asia 2017 Congress. Effects of steroid ointment application on chemotherapy-induced phlebitis: A randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial.2017Nov（共著発表）	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
33	論文発表 「ICCJ(International Cancer Conference Journal), A cadaveric demonstration of visualization of the urethra using a lighted stent during transanal intersphincteric resection, 2018,March,(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
34	論文発表 Annals of Surgery, Impact of Donor Age on Recipient Survival in Adult-to-Adult Living-donor Liver Transplantation, 267, 2018, 1126-1133 （共著発表）	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
35	論文発表 American Journal of Transplantation　Impact of Subnormothermic Machine Perfusion Preservation in Severely Steatotic Rat Livers: A Detailed Assessment in an Isolated Setting 2017, 6月、(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	玉木　一路
36	論文発表 Annals of Surgery　Impact of Donor Age on Recipient Survival in Adult-to-Adult Living-donor Liver Transplantation 2017,7月、(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	玉木　一路
37	論文発表 "A prospective study of intensity-modified radiation therapy in comparison with conventional 3D-RT for BR pancreatic cancer patients with arterial involvement.", Anticancer Research, 37(12):7023-7030, 2017 (共著発表)	外科治療・集学的診療コース	仲野　健三
38	論文発表 "Comparison of Recurrence Between Pancreatic and Duodenal Neuroendocrine Neoplasms After Curative Resection: A Single-Institution Analysis.", Anticancer Research, 2018 Feb;25(2):528-534 (共著発表)	外科治療・集学的診療コース	仲野　健三

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
39	論文発表 Journal of the National Cancer Institute、Effects of Cryotherapy on Objective and Subjective Symptoms of Paclitaxel-Induced Neuropathy: Prospective Self-Controlled Trial、Hanai A, Ishiguro H, Sozu T, Tsuda M, Yano I, Nakagawa T, Imai S, Hamabe Y, Toi M, Arai H, Tsuboyama T.、 2018 Feb; 110(2): 141-148（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	津田　萌
40	論文発表 Cancer Immunol Immunother、Kawaguchi K, Suzuki E, Nishie M, Kii I, Kataoka TR, Hirata M, Inoue M, Pu F, Iwaisako K, Tsuda M, Yamaguchi A, Haga H, Hagiwara M, Toi M.、Downregulation of neuropilin-1 on macrophages modulates antibody-mediated tumoricidal activity. 2017 Sep;66(9):1131-1142（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	津田　萌
41	論文発表 Annals of Oncology, 2017, Nov; 28(11): 2888-2889,Ohgami M, Bando H, Ishiguro H, Tsuda M, Toriguchi N, Aogi K, Toi M, Masuda N, Mitsuhashi S, Kurosawa A, Homma M.、Effect of dose timing on the blood concentration of lapatinib in patients with breast cancer（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	津田　萌
42	論文発表 Annals os Surgery Real-time navigation for liver surgery using projection mapping with indocyanine green fluorescence: development of the novel Medical Imaging Projection System 29年2月 （筆頭著者）	外科治療・集学的診療コース	西野　裕人
43	論文発表 World J Surg. Long-Term Survival of Recurrent Intrahepatic Cholangiocarcinoma: The Impact and Selection of Repeat Surgery. 2018 Jun（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
44	論文発表 J Invest Surg. A Propensity Score-Based Analysis of Laparoscopic Liver Resection for Liver Malignancies in Elderly Patients. 2017 Oct （共著発表）	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
45	論文発表 Ann Surg Oncol. A Novel Biomarker-Based Preoperative Prognostic Grading System for Predicting Survival After Surgery for Intrahepatic Cholangiocarcinoma. 2017 May （共著発表）	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
46	論文発表 Physica Medica,「Geometric and dosimetric quality assurance using logfiles and a 3D helical diode detector for Dynamic WaveArc」, 2017/11,（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
47	論文発表 International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiatation Oncology,「Comparison of gamma pass rate between the dose-to-water and dose-to-medium reporting modes for patient-specific QA using a helical diode array dosimeter with a fixed phantom density」, 2018/1,（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
48	論文発表 Radiation Oncology,「Monitoring of mechanical errors and their dosimetric impact throughout the course of non-coplanar continuous volumetric-modulated arc therapy」, 2018/2,（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
49	論文発表 Journal of applied clinical medical physics,「Quality assurance of geometric accuracy based on an electronic portal imaging device and log data analysis for Dynamic WaveArc irradiation」, 2018/3,（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
50	論文発表 Gastroenterology, Mimicking Gastric Natural Killer/T-Cell Lymphoma, 2017 Jul Oncology, The Feasibility of 18-mm-Diameter Colonic Stents for Obstructive Colorectal Cancers, 2017 Dec （筆頭発表）	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	小川　智
51	論文発表 Endosc Int Open, Effectiveness and safety of metallic stent for ileocecal obstructive colon cancer: a report of 4 cases, 2017 Sep(共著発表）	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	小川　智
52	論文発表 Gastoenterology, ARID1A Maintains Differentiation of Pancreatic Ductal Cells and Inhibits Development of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma in Mice, 2018 Mar(共著発表）	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	小川　智
53	論文発表 Cancer Letter Clonal composition of human ovarian cancer based on copy number analysis reveals a reciprocal relation with oncogenic mutation status.2017 Oct 1;405:22-28.Sakai K, Ukita M, Schmidt J, Wu L, De Velasco MA, Roter A, Jevons L, Nishio K, Mandai M.(共著発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	浮田　真沙世
54	論文発表 「Physica Medica」「Dosimetric advantafes afforded by a new irradiation technique, Dynamic WaveArc, used for accelerated partial breast irradiation」2018年4月12日（筆頭発表）	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
55	論文発表 J Anus Rectum Colon 2017; 1(4): 141-146 Laparoscopic ventral rectopexy with sacrocolpopexy for coexisting pelvic organ prolapse and external rectal prolapse	外科治療・集学的診療コース	喜安　佳之
56	論文発表 「Precision Oncology」「The lack of increases in circulating endothelial progenitor cell as a negative predictor for pathological response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients」「2017.4」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
57	論文発表 「Cancer Medicine」「A phase I/II pharmacokinetics/pharmacodynamics study of irinotecan combined with S-1 for recurrent/metastatic breast cancer in patients with selected UGT1A1 genotypes (the JBCRG-M01 study)」「2017.9」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
58	論文発表 「The Journal of Biological Chemistry」「Sal-like 4 protein levels in breast cancer cells are post-translationally down-regulated by tripartite motif containing 21」「2018.3」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	田中　直
59	論文発表 「The Journal of Clinical Investigation」「Genetic regulation of the RUNX transcription factor family has antitumor effects」「2017.6」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	田中　直
60	論文発表 European Journal of Radiology、Can the “pine-needle sign” on computed tomography be used to differentiate pulmonary arteriovenous malformation from its mimics? Analysis based on dynamic contrast enhanced chest computed tomography in adults. 2017年10月、(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
61	論文発表 European journal of surgical oncology. Proposal of a stage-specific surveillance strategy for colorectal cancer patients: A retrospective analysis of Japanese large cohort. Okamura R, Hida K, Nishizaki D, Sugihara K, Sakai Y. Epub 2018 Jan 31(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
62	論文発表 Masao Watanabe et al. The influence of elevated hormone levels on physiological accumulation of 68Ga-DOTATOC. Ann Nucl Med 2018; 32: 191-196(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
63	論文発表 「Scientific reports」、「Taxanes and platinum derivatives impair Schwann cells via distinct mechanisms.」、2017年7月 (共著発表)	がん専門薬剤師コース	荻原　孝史
64	論文発表 Severe esophagitis associated with cytomegalovirus during concurrent chemoradiotherapy for esophageal cancer. Jpn J Clin Oncol. 2017;47:885-8,(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
65	論文発表 The Use of External-beam Radiotherapy for Muscle-invasive Bladder Cancer in Elderly or Medically-fragile Patients. Anticancer Res. 2017;37:5761-6(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
66	論文発表 Long-term outcomes of definitive external-beam radiotherapy for non-metastatic castration-resistant prostate cancer. Int J Clin Oncol. 2018 Mar 19. doi: 10.1007/s10147-018-1265-8.(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
67	論文発表 Ann Surg Oncol. 2018 Jun;25(6):1608-1615 Efficacy of Endoscopic Management for Early Remnant Gastric Cancer: Is Completion Gastrectomy Truly Necessary in Cases with Marginally Noncurative Histopathologic Features? (筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
68	論文発表 「Asian Journal of Surgery」「Clinical impact of margin status on survival and recurrence pattern after curative-intent surgery for pancreatic cancer」「 2017」	外科治療・集学的診療コース	山本　健人
69	論文発表 「Scientific Reports」、「Taxanes and platinum derivatives impair Schwann cells via distinct mechanisms」、「平成29年7月」(筆頭発表)	がん専門薬剤師コース	小柳　円花

【三重大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	論文発表 Pertuzumab, trastuzumab and eribulin mesylate therapy for previously treated advanced HER2-positive breast cancer: a feasibility study with analysis of biomarkers. Oncotarget. 2018 Feb 16 (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	戸野泰孝
2	論文発表 An Evaluation of Hemostatic Abnormalities in Patients With Hemophilia According to the Activated Partial Thromboplastin Time Waveform. Clin Appl Thromb Hemost. 2018 Jan 1 (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	片山春奈
3	論文発表 Successful treatment of primary bone marrow Hodgkin lymphoma with brentuximab vedotin: a case report and review of the literature. J Med Case Rep. 2018 May 30 (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
4	論文発表 Spontaneous Tumor Lysis Syndrome in a Patient with a Dedifferentiated Endometrial Adenocarcinoma. Case Rep Oncol Med. 2017 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
5	論文発表 CXCL12-CXCR4 Axis Is Required for Contact-Mediated Human B Lymphoid and Plasmacytoid Dendritic Cell Differentiation but Not T Lymphoid Generation. J Immunol. 2017 Oct 1 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
6	論文発表 Persistent symptomatic parvovirus B19 infection with severe thrombocytopenia transmitted by red blood cell transfusion containing low parvovirus B19 DNA levels. Transfusion. 2017 Jun. (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
7	学会発表「Successful Everolimus Treatment of Kaposiform Hemangioendothelioma with Kasabach-Merritt phenomenon: A Report of Two Cases」(筆頭発表)第8回JSH国際シンポジウム、5-19-2017	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 「The 76th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association」、「Immunological activities of adoptively transferred tumor antigen-specific CTLs costimulated with OX40 signaling in vitro」、「2017年09月30日 」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	PHAM　MINH NGOC
2	学会等発表 「The 46th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology/Workshop」、「Co-stimulation via OX40 signal in vitro to generate tumor antigen-specific CTLs for adoptive cell transfer therapy」、「Dec. 13 (Wed.), 2017」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	PHAM　MINH NGOC
3	学会等発表 「77th World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (in Seoul)」 「Oral mucositis associated with anti-egfr therapy in colorectal cancer: single institutional retrospective cohort study.」「2017.9.13-14」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
4	学会等発表 「International Sessions　第76回日本癌学会学術総会」 、「Characterization of URST1 as a novel therapeutic target for breast cancer」、「2017年9月29日」(筆頭発表)	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
5	論文発表 「Int J Cancer.」「In vivo antitumor function of tumor antigen-specific CTLs generated in the presence of OX40 co-stimulation in vitro.」、「2018 Jun 」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	PHAM　MINH NGOC
6	論文発表 「Surg Today」、「Predictive detection areas for identifying additional MRI- detected breast lesions on second-look ultrasonography.」、「2017 Nov」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
7	論文発表 「Journal of Surgical Research」、「Prediction of difficult laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis.」、「2017/8」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	論文発表 「Alimentary Pharmacology & Therapeutic」「CYP3A4/5 genotype status and outcome of vonoprazan-containing Helicobacter pylori eradcation therapy in Japan」「 2017.5」(共著発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹

【大阪医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	論文発表　"CD24 expression is a marker for predicting clinical outcome and regulates the epithelial-mesenchymal transition in ovarian cancer via both the Akt and ERK pathways."(共著発表)	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村真由美
2	論文発表　"Intraperitoneal cytology after laparoscopic hysterectomy in patients with endometrial cancer: A retrospective observational study."(共著発表)	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
3	DDW2017 in Chicago:ポスターセッション(筆頭) Causative pathogens pattern and clinical outcomes in acute cholecystitis	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
4	SGI 2017:ポスターセッション(筆頭) Prospective evaluation of digital single-operator cholangioscope for diagnostic and therapeutic procedures	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
5	論文発表　・Clin Nucl Med. 2017 May;42(5):e258-e260.Central Nervous System Involvement of Intravascular Large B-Cell Lymphoma on 18F-FDG PET/CT. Higashiyama A, Komori T, Inada Y, Nakajima H, Narumi Y.	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央
6	論文発表　・SNMMI 2017 Detectability of primary invasive bladder cancer in delayed 18F-FDG PET imaging after oral-hydration-voiding-refilling. 2017年6月10日～15日Akira Higashiyama, MD, Tsuyoshi Komori, MD, PhD, Yoshikazu Tanaka, MD, Yuki Inada, MD, PhD, Yoshifumi Narumi, MD, PhD.	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央
7	論文発表　・Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2017 Aug;44(9):1609-1610. 2017 Jun 1. Diffuse 18F-FDG uptake throughout the spinal cord in the acute phase of Neuromyelitis Optica Spectrum disorder. Higashiyama A, Komori T, Inada Y, Nishizawa M, Nakajima H, Narumi Y.	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央

【京都薬科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	論文発表 Combination of lenalidomide and low-dose dexamethasone therapy promotes the anticoagulant activity of warfarin in patients with immunoglobulin light-chain amyloidosis;Oncology Letters, 2017 July（共著）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
2	論文発表 Pharmacokinetic Interaction Between Tacrolimus and Fentanyl in Patients Receiving Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation; Annals of Transplantation, 2017 Sep(共著）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
3	学会等発表 The planning of best therapy based monitoring Lenlidomide blood concentration,平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（米国）,2018 March（筆頭）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子

資料 11

国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 「第76回日本癌学会学術総会」「潰瘍性大腸炎における炎症発癌のゲノム解析」「2017年9月28日」 （筆頭発表）	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
2	学会等発表 「第15回日本臨床腫瘍学会学術集会. 透析患者におけるFOLFOX療法の薬物動態および安全性についての検討」「 2017年7月29日」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	船越　太郎
3	学会等発表 「第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会」「拮抗失行とAnarchic handを呈した脳腫瘍患者一例に対するリハビリテーション」「平成29年10月」（筆頭発表）	リハビリテーションスタッフコース	田畑　阿美
4	学会等発表 「第15回日本臨床腫瘍学会」「冷却手袋靴下によるパクリタキセル起因性末梢神経障害の予防：乳癌化学療法患者に対する個体内比較試験.」「2017年7月」（筆頭発表）	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
5	学会等発表 「第2回日本がんサポーティブケア学会」「パクリタキセル療法に伴う末梢神経障害における特徴的な言語表現：冷却グローブ・ソックスの予防効果に関する臨床試験より.」「2017年10月」 （筆頭発表）	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
6	学会等発表 「第7回日本がんリハビリテーション研究会　がんサバイバーにおけるWebコンテンツを活用したセルフマネジメントの実態」「2018年3月」（筆頭発表）	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
7	学会等発表 「第6回　婦人科がんバイオマーカー研究会」」「2018/2/24」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
8	学会等発表 「第69回日本産科婦人科学会学術講演会」「 Suppression of Warburg effect enhances cisplatin sensitivity in ovarian clear cell carcinoma」「 2017/4/16 」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
9	学会等発表 「第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「Suppression of Warburg effect influences chemosensitivity in ovarian clear cell carcinoma」「2017/7/29」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
10	学会等発表 「第76回日本癌学会総会」「PDK2 contributes to the platinum resistance of ovarian clear cell carcinoma　accompanied by chromosome 17q amplification」「2017/9/29」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
11	学会等発表 「第30回近畿内視鏡外科研究会」「解剖所見に基づいたTransanal-ISRの前壁切離方法」「2018,Sep,30」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
12	学会等発表 「第30回日本内視鏡外科学会　ワークショップ」「局所再発症例に3Dシミュレータと術中ナビゲーションで挑む」「2018,Dec,7-9」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
13	学会等発表 「第72回日本消化器外科学会総会」「移植肝冷保存後の水素灌流は冷阻血・再灌流障害を抑制する」「2017.7/20-22 」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
14	学会等発表 「第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会」「エベロリムス使用開始後早期に生じた直腸周囲膿瘍に対しドレナージ術を要した一例」「 2017/9/2」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	仲野　健三
15	学会等発表 「第15回日本臨床腫瘍学会学術総会」「Lapatinib administration timing is associated with skin toxicity: A cohort study from JBCRG-16/Neo-LaTH」「2017.7.27」（筆頭発表）2017年度奨励賞受賞	外科治療・集学的診療コース	津田　萌
16	学会等発表 「第117回日本外科学会定期学術集会」「ICG蛍光法にプロジェクションマッピングを応用した医療機器MIPSによるリアルタイムナビゲーション肝切除　～系統的肝切除と肝部分切除への適用～」「29年4月」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	西野　裕人
17	学会等発表 「第117回日本外科学会学術総会」「大腸がんスフェロイド破壊による、WNT経路の活性化と増殖と幹細胞性の亢進」「4月29日」	外科治療・集学的診療コース	萩原　健

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
18	学会等発表 「第26回日本がん転移学会学術集会総会」「大腸がんスフェロイドの断片化による単細胞からのスフェロイド形成能亢進と遺伝子発現誘導」「7月27日」	外科治療・集学的診療コース	萩原　健
19	学会等発表 「第76回日本癌学会学術総会」「大腸がんスフェロイドの断片化による増殖とスフェロイド形成能の亢進」「9月30日」	外科治療・集学的診療コース	萩原　健
20	学会等発表 「第30回日本内視鏡外科学会」「腹腔鏡下肝部分切除における開腹移行症例の危険因子および術後短期成績の検討」「2017/12/9」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
21	学会等発表 「第11回肝臓内視鏡外科研究会」「肝右葉切除後の腹腔鏡下再肝切除における注意点」「2017/12/6」（筆頭演者）	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
22	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第30回学術大会」「日々のログファイルを用いたVolumetric-modulated DWA therapy照射中の機械精度検証」「2017/11」（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
23	学会等発表 「第113回日本医学物理学会学術大会」「Assessment of delivery accur, acy of Dynamic WaveArc technique using dose reconstruction method」「2017/4」（筆頭発表）	医学物理士コース	平島　英明
24	学会等発表 「第59回 日本婦人科腫瘍学会学術集会」「The malicious role of immune-reaction in Uterine Serous carcinoma」「平成29年7月29日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	三瀬　有香
25	学会等発表 「第76回 日本癌学会学術総会」「The malicious role of immun(e-reaction in Uterine Serous carcinoma」「平成29年9月28日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	三瀬　有香
26	学会等発表 「第30回JASTRO(日本放射線腫瘍学会)」 「乳房温存手術における断端陰性例に対するブースト照射の必要性についての遡及的検討」「2017年11月17日」（筆頭発表）	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
27	学会等発表 「第30回日本放射線腫瘍学会」「最適化支援ソフトウェアの前立腺癌全骨盤SIB-VMAT計画における有用性評価」「2017年11月」(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	藤井　康太
28	学会等発表 「日本癌学会総会」「Conserved residues of integrin alpha 6 for migration are potential targets for metastasis prevention in breast cancer.」「2017.9」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
29	学会等発表 「日本癌学会総会」「乳癌での発生転写因子SALL4の発現の翻訳後制御機構の解明」「2017.9」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
30	学会等発表 「日本癌学会総会」「VEGF/NRP1シグナルは乳癌細胞におけるfilopodia形成とmigrationを促進する」「2017.9」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
31	学会等発表 「日本癌学会総会」「let-7/LIN28回路によるHER2陽性乳癌のトラスツズマブ治療効果の制御」「2017.9」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
32	学会等発表 「日本分子生物学会」「乳癌での転写因子SALL4の翻訳後制御機構」「2017.12」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	田中　直
33	学会等発表 「第45回日本磁気共鳴医学会大会」「随伴性膵炎を伴う膵臓癌に関するMRI拡散強調計算画像の有用性」「2017年9月」（筆頭発表）	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
34	学会等発表 「第46回日本IVR学会総会」「多量腹水除去後に経皮経肝的に門脈ステント留置を行った1例」「2017年5月」（共著発表）	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
35	学会等発表 「第117回日本外科学会学術集会」「大腸癌肝転移に対する新たな治療ガイドラインを求めて」「4月27日」	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
36	学会等発表 「第53回日本肝癌研究会」「切除可能大腸癌肝転移に対する術前化学療法の意義」「7月7日」	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
37	学会等発表 「第72回日本消化器外科学会総会」「大腸癌肝転移症例に対する新たなGrade分類を求めて」「7月22日」	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
38	学会等発表 「第11回肝臓内視鏡外科研究会」「大腸癌肝転移に対する集学的治療における腹腔鏡下肝部分切除術の有用性」「12月6日」	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
39	学会等発表 「第30回近畿内視鏡外科研究会」「部分切除の方法でみた 腹腔鏡下肝部分切除の短期手術成績」 「9月30日」	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
40	学会等発表 「第87回大腸癌研究会」「多施設共同データベースを用いた経肛門ドレンの意義の検討」「平成29年7月7日」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
41	学会等発表 「第30回日本内視鏡外科学会」「TaTME registryから見た本邦でのレジストリーの課題：どのように臨床試験に乗せるか？」「平成29年12月8日」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
42	学会等発表 「第88回大腸癌研究会」「「個別化」の視点から内視鏡的切除後のT1直腸癌に対する追加切除の条件を再検討する」「平成30年1月　26日」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
43	学会等発表 「第76回日本医学放射線学会総会」 「Lesion detectability of a newly-developed flexible PET scanner with different layouts of detectors: pilot study.」「2017/4/13-16」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
44	学会等発表 「日本核医学会近畿地方会　第50回」「可搬型PET装置(fxPET)の3撮像法での病変検出率、定量値、画質の検討について」「2017/7/8」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
45	学会等発表 「日本核医学会学術総会　第57回総会・学術総会」「可搬型PET装置(fxPET)の3つの撮像法での病変検出率、定量値、画質の検討　Detectability, quantitative value and image quality in mobile PET scanner with three different layouts.」「2017/10/5」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	渡部　正雄
46	学会等発表 「日本泌尿器腫瘍第3回学術集会」「M0去勢抵抗性前立腺癌に対する根治的放射線治療の長期成績の検討」「2017/10/22」(筆頭発表)	希少がん・小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
47	学会等発表 「日本消化器外科学会総会 」「直腸癌における所属外リンパ節切除の意義」「2017/07/20 」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
48	学会等発表 「大腸癌研究会 IHCを用いた MSIスクリーニングの実践」「2018/01/26 」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
49	学会等発表 「大腸癌術後フォローアップ研究会」「High risk Stage I」 について考える 2017/02/04 (筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
50	学会等発表 「第118回日本外科学会定期学術集会」「局所進行直腸癌に対する再発危険因子に応じた治療戦略」「2018.4.5」(筆頭発表)	外科治療・集学的診療コース	山本　健人
51	学会等発表 「日本薬物動態学会第32回年会」「Physiologically-Based Pharmacokinetic Modeling and Simulation of Tacrolimus in Living-Donor Liver Transplantation : Effects of Liver Regeneration and CYP3A5 Genotype」「29年11月29日」(筆頭発表)	がん専門薬剤師コース	糸原　光太郎
52	論文発表 「CANCER BOARD of the Breast, 3(2), 131-137.　」「薬物療法マネージメントのこつ　末梢神経障害対策」 「2017年8月」(筆頭発表)	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子
53	論文発表 「臨床リハ, 26(2), 47-55.」「 乳がんの手術治療とリハビリテーション」「2017年8月」(筆頭発表)	リハビリテーションスタッフコース	華井　明子

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
54	論文発表 「手術、Ta(p)TMEに必要な肛門管外科解剖、2018,Dec、筆頭発表」	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
55	論文発表 「境界グラフトの健常性維持と機能再生を目指した移植肝臓器保存戦略」「 Organ Biology, 24;2, 2017, 61-67,」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
56	論文発表 「Organ Biology」「境界グラフトの健常性維持と機能再生を目指した移植肝臓器保存戦略」「2017, 10月」(共著発表)	外科治療・集学的診療コース	玉木　一路

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 第15回癒しの環境研究会愛知全国大会 タイトル：七栗記念病院緩和ケア病棟におけるコンセルジュの役割(201年8月27日　単著発表)	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	田中雄規
2	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 高齢者DLBCLのR-CHOP療法におけるvincristine (VCR)投与量の予後への影響 2017年10月22日(共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	澤木昭彦
3	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 高齢者限局期原発性胃DLBCLにおける化学免疫療法単独の治療成績 2017年10月22日 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	澤木昭彦
4	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 抗リン脂質抗体症候群 (APS)腎症の病態を呈した特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 2017年10月20日 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	澤木昭彦
5	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 クリプトコッカス髄膜炎を合併した非定型慢性骨髄性白血病に対する移植治療例 2017年10月20日 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
6	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 t(6;9)(p12;q34)で発症した慢性骨髄性白血病 2017年10月20日 (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
7	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 遺伝子組換え活性型第VII因子製剤により大腿骨転子部骨折手術を安全に止血管理できた先天性第VII因子欠乏症　2017年10月21日 (筆頭発表)	腫瘍内科専門医養成コース	片山春奈
8	学会発表 第79回日本血液学会学術集会 血友病A患者におけるPKツールの臨床的有用性　2017年10月20日 (共著発表)	腫瘍内科専門医養成コース	片山春奈
9	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳房温存術で整容性を向上させるための工夫」 29年7月13-15日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
10	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「吸引式組織生検で非浸潤性乳管癌と診断された症例へのセンチネルリンパ節生検省略の可能性」 29年7月13-15日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
11	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳房温存手術断端陽性例における追加切除の必要性の検討」 29年7月13-15日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
12	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「CT・USにおける術前腋窩リンパ節評価とFNA併用における有用性について」 29年7月13-15日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
13	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「腫瘍浸潤リンパ球(TIL)と術前化学療法の治療効果に関する検討」 29年7月13-15日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
14	学会等発表 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 「下部領域乳癌の温存手術において、乳腺外科医が施行できるvolume replacementの手技」 29年9月21-22日 (共同演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
15	学会等発表 東海外科学会 「術前化学療法著効例に対しブレストマーカーを留置することで適切な乳房温存療法を施行し得た一例」 29年10月15日 （筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
16	学会等発表 日本臨床外科学会 「乳房温存術後断端陽性にて再手術が必要となった際の人工乳房再建」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
17	学会等発表 日本臨床外科学会 「乳房温存手術における術式選択のポイント～脂肪壊死を起こさないために～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
18	学会等発表 日本臨床外科学会 「術前に乳癌腋窩リンパ節転移個数を正確に評価するための診断戦略～ベッドサイド迅速細胞診の有用性～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
19	学会等発表 日本臨床外科学会 「センチネルリンパ節転移陽性症例における腋窩郭清省略の適応拡大に向けて～SNLにマクロ転移1個を認めAxを省略したBp症例の検討～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
20	学会等発表 日本臨床外科学会 「乳房温存手術における術式選択のポイント～脂肪壊死を起こさないために～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
21	学会等発表 日本臨床外科学会 「術前に乳癌腋窩リンパ節転移個数を正確に評価するための診断戦略～ベッドサイド迅速細胞診の有用性～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
22	学会等発表 日本臨床外科学会 「センチネルリンパ節転移陽性症例における腋窩郭清省略の適応拡大に向けて～SNLにマクロ転移1個を認めAxを省略したBp症例の検討～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
23	学会等発表 日本腹部救急医学会 「腹部鈍的外傷による小腸損傷およびS状損傷に合併した遅発性小腸穿孔の1例」 29年3月2日 （筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
24	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳房温存術で整容性を向上させるための工夫」 29年7月13-15日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
25	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳房温存手術断端陽性例における追加切除の必要性の検討」 29年7月13-15日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
26	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「吸引式組織生検で非浸潤性乳管癌と診断された症例へのセンチネルリンパ節生検省略の可能性」 29年7月13-15日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
27	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「CT・USにおける術前腋窩リンパ節評価とFNA併用における有用性について」 29年7月13-15日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
28	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「腫瘍浸潤リンパ球（TIL）と術前化学療法の治療効果に関する検討」 29年7月13-15日 （筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
29	学会等発表 最新情報カンファランス 「乳癌の生物学的特性と腫瘍浸潤リンパ球（TIL）に関する検討」 29年8月5-6日（筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
30	学会等発表 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 「下部領域乳癌の温存手術において、乳腺外科医が施行できるvolume replacementの手技」 29年9月21-22日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
31	学会等発表 東海外科学会 「術前化学療法著効例に対しブレストマーカーを留置することで適切な乳房温存療法を施行し得た一例」 29年10月15日 （筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
32	学会等発表 臨床外科学会 「乳房温存術後断端陽性にて再手術が必要となった際の人工乳房再建」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
33	学会等発表 臨床外科学会 「乳房温存手術における術式選択のポイント～脂肪壊死を起こさないために～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
34	学会等発表 臨床外科学会 「術前に乳癌腋窩リンパ節転移個数を正確に評価するための診断戦略 ～ベッドサイド迅速細胞診の有用性～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
35	学会等発表 臨床外科学会 「センチネルリンパ節転移陽性症例における腋窩郭清省略の適応拡大に向けて～SNLにマクロ転移1個を認めAxを省略したBp症例の検討～」 29年11月23-25日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
36	学会発表「A case of isolated myeloid sarcoma preceding over acute myeloblastic leukemia」（筆頭発表）第59回小児血液がん学会学術総会, 2017/11/9	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 「第26回日本乳癌学会学術総会」、「当院における乳房MRI検出病変とSecond-look USの検討」、「29年7月13 日」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
2	学会等発表 「第117回日本外科学会定期学術集会」、「 Invasive micropapillary carcinoma における CD44s,CD44v6,CD44v9 と xCT の発現の検討」、「29年4月27日」（共著発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
3	学会等発表 「第25回日本乳癌学会学術総会」、「混合型invasive micropapillary carcinomaにおける CD44s、CD44v6、CD44v9とxCTの発現と予後」、「29年7月13 日」（共著発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
4	学会等発表 「第25回日本乳癌学会学術総会」、「抗HER2抗体による乳癌局所への細胞性免疫の誘導」、「29年7月13 日」（共著発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
5	学会等発表 「第15回日本臨床腫瘍学会学術集会」、「Characterization of URST1 as a new prognostic biomarker　and therapeutic target for breast cancer」、「29年7月27日」（筆頭発表）	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
6	学会等発表 「滋賀医大シンポジウム」、「乳癌の新規バイオマーカー及び治療標的分子であるURST1の同定と機能解析」、「29年12月15日」（筆頭発表）	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
7	学会等発表 「JDDW」、「急性胆嚢炎緊急手術症例における術後SSI危険因子の検討」、「29年10月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	学会等発表 「日本神経内分泌腫瘍研究会」、「非特異的な画像所見を呈した膵神経内分泌腫瘍の1例」、「29年9月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	学会等発表 「沖縄腹腔鏡下肝胆膵消化管手術研究会」、「腹腔鏡下胃固定術が有効であった膵体尾部・脾臓摘出術後胃軸捻転症の1例」、「29年6月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
10	学会等発表 「日本外科学会」、「CT画像による膵頭十二指腸切除後膵液瘻の予知可能性」、「29年4月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
11	学会等発表 「日本肝胆膵外科学会」、「Use of computed tomography for prediction of postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy」、「29年6月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
12	学会等発表 「日本肝胆膵外科学会」、「Risk factors of difficult laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis」、「29年6月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
13	学会等発表 「近畿内視鏡外科研究会」、「腹腔鏡下膵体尾部切除術後、再手術例の検討」、「29年9月」（筆頭発表）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
14	学会等発表 「近畿膵疾患懇話会」、「切除をしたUR-LAおよびUR-M膵癌症例の検討」、「29年10月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
15	学会等発表 「滋賀肝胆膵勉強会」、「鑑別診断が困難であった膵頭部腫瘤の1例」、「29年7月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
16	学会等発表 「日本消化器外科学会」、「膵頭十二指腸切除術における術後CTと膵液瘻の関連」、「29年7月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
17	学会等発表 「日本胆道学会」、「急性胆嚢炎緊急手術症例におけるグラム染色別にみた胆汁細菌の検討」、「29年9月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
18	学会等発表 「日本膵切研究会」、「血清プロカルシトニン値による膵頭十二指腸切除後感染性合併症の早期予測の可能性」、「29年8月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
19	学会等発表 「日本膵臓学会」、「膵癌術後における筋肉量変化と予後との関連性」、「29年7月」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
20	学会等発表 「日本臨床腫瘍学会学術集会 シンポジウム：合併症を有する患者への横断的アプローチ」「糖尿病合併がん患者に対する治療戦略」「29年7月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
21	学会等発表 「第27回日本医療薬学会年会 ランチョンセミナー」「がん医療において真の薬剤師力が求められる－臨床・研究活動においてやるべきこと・目指すべきもの－」「 29年11月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
22	学会等発表 「日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術大会シンポジウム」「保険薬局薬剤師に対する栄養管理研修の成果」「29年6月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
23	学会等発表 「日本医療薬学会シンポジウム」「臨床現場で求められる注射剤の製剤学的特徴とは」「29年11月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
24	論文発表 「日本消化器外科学会雑誌」、「経鼻イレウス管による腸重積整復後に腹腔鏡補助下に切除した小腸癌の1例」、「2017/4」(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充

【大阪医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	「嚢胞性子宮腺筋腫に対し子宮鏡下摘出術を施行した一例」日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 33(2) P228-233, 2017(共著発表)	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
2	腹部放射線学会、腎被膜から発生したと考えられたAMLの一例　2017/6	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	田中　義和
3	第93回日本消化器内視鏡学会総会：ポスターセッション(筆頭)2017/5/11 良性胆管・膵管狭窄に対するBONASTENT M-intraductalの使用経験	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
4	29年7月15日　第48回日本膵臓学会大会：ワークショップ(筆頭) 慢性膵炎に伴う膵管狭窄に対する新型金属ステント留置術の検討	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
5	JDDW 2017：ワークショップ(筆頭)2017/10/13 Prospective histological evaluation of a 20G core trap with a forward-cutting bevel needle for EUS-FNA of pancreatic lesions	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
6	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会:ワークショップ(筆頭)2017/11/18 デジタル型胆道内視鏡を用いた胆道疾患の診断能の検討	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
7	東銀座フィルムリーディング倶楽部　ウェルニッケ脳症の一例　2017.7.28	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央
8	DDW、経口摂取困難な切除不能進行・再発胃癌症例に 対してmFOLFOX6を施行した17例についての検討、2017.10.13、筆頭発表	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
9	第20回日本高齢消化器病学会総会、切除可能食道癌の高齢者に対する術前化学療法と放射線化学療法についての検討、2017.7.15、筆頭発表	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
10	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール （一般演題） 「Micro RNA－22 を介した子宮頸癌の分子標的治療への応用」】【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
11	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール （一般演題） 「Micro RNA－22 を介した子宮頸癌の分子標的治療への応用」】【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
12	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール （一般演題） 「子宮頸癌で卵巣温存はどこまで可能か」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
13	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール （一般演題）「子宮頸癌で卵巣温存はどこまで可能か」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
14	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール 「腹腔鏡下子宮体癌手術において，腹腔内播種のため開腹移行例の検討」（共著）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
15	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール 「凍結融解胚移植における血中エストラジオール値と子宮内膜厚の関連についての検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
16	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール 「生活習慣病からみた子宮体がんの臨床病理学的特徴」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
17	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール 「卵巣予備能評価として血清テストステロン基礎値は選択肢となりうるか」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
18	【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】2017/4/13-16 場所：広島県立総合体育館・リーガロイヤルホテル広島・NTTクレドホール 「2,347 例の妊娠初期における遺伝学的超音波検査の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
19	【第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)】2017/5/26-28 場所：大阪国際会議場 （一般演題） 「神経内分泌腫瘍成分を伴う子宮頸部癌肉腫の1例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
20	【第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)】2017/5/26-28 場所：大阪国際会議場 （一般演題） 「鎖骨上窩リンパ節に再発を来した卵巣境界悪性腫瘍の1例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
21	【第136回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会】2017/6/17-18 場所：大阪国際交流センター （一般演題） 「21トリソミーモザイクと18トリソミーの二絨毛膜二羊膜双胎の1例」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
22	【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】2017/7/16-18 　パシフィコ横浜　会議センター （一般演題） 「出生後に先天性気管閉鎖症と診断した1例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
23	【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】2017/7/16-18 場所：パシフィコ横浜　会議センター （一般演題） 「原発性アルドステロン症合併妊娠の一例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
24	【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】2017/7/16-18 場所：パシフィコ横浜　会議センター （一般演題） 「当院におけるPPHに対する子宮動脈塞栓術とBakriバルーン使用例の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
25	【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】2017/7/16-18 場所：パシフィコ横浜　会議センター (一般演題)「前置胎盤のMRIにおける子宮下節の占有面積率と帝王切開時出血量の予測について」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
26	【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】2017/7/16-18 場所：パシフィコ横浜　会議センター (一般演題) 「社会的ハイリスク妊産婦の検討大学病院における里親制度の支援について」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
27	【第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会】2017/7/27-29 場所：ホテル日航熊本、くまもと県民交流館パレア (一般演題)「子宮頸癌における骨盤リンパ節転移の術前術中診断：PET-CT および sentinelnode biopsy の有用性」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
28	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題) 「進行卵巣癌、腹膜癌に対して診断目的で行った腹腔鏡下手術の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
29	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「当院における妊娠合併卵巣腫瘍に対する腹腔鏡下手術」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
30	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「当院での大型子宮に対する腹腔鏡下子宮全摘出術の工夫」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
31	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「Mayer-Rokitansky-Kuster-Hauser(MRKH)症候群に対して腹腔鏡補助下McIndoe法を施行した3例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
32	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「センチネルリンパ節マッピングによるリンパ流を意識した骨盤リンパ節郭清術」 「センチネルリンパ節マッピングによるリンパ流を意識した骨盤リンパ節郭清術」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
33	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「センチネルリンパ節マッピングによるリンパ流を意識した骨盤リンパ節郭清術」 「センチネルリンパ節マッピングによるリンパ流を意識した骨盤リンパ節郭清術」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
34	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「子宮内避妊具の抜去における子宮鏡の有用性の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
35	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「子宮内避妊具の抜去における子宮鏡の有用性の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
36	【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】2017/9/7-9 場所：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館 (一般演題)「腹腔鏡手術後に臍部周囲より動脈性に出血し緊急再手術となった1症例」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
37	JSAWI2017: 婦人科悪性腫瘍でのリンパ節転移の診断における術前PETーCTの有用性 2017年9月1日　筆頭発表	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
38	第57回日本産科婦人科内視鏡学会: 当院での大型子宮に対する腹腔鏡下子宮全摘術の検討 2017年9月7日　筆頭発表	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
39	第137回近畿産科婦人科学会　腫瘍研究部会: 当科で子宮頸部細胞診「AGC」と判定された症例について(筆頭) 2017年10月29日	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
40	第137回近畿産科婦人科学会　腫瘍研究部会: 当科で子宮頸部細胞診「AGC」と判定された症例について(共著) 2017年10月29日	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
41	【第32回日本女性医学学会学術集会】2017/11/4-5 場所：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 (一般演題) 「卵巣癌患者における子宮内膜症癌化と脂質代謝の検討」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
42	【第32回日本女性医学学会学術集会】2017/11/4-5 場所：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 (一般演題)「肥満子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
43	【第32回日本女性医学学会学術集会】2017/11/4-5 場所：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 (一般演題)「肥満子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
44	【第62回日本生殖医学会学術講演会・総会】2017/11/16-17 場所：海峡メッセ下関、ドリームシップ (一般演題)「卵管留水腫に対する腹腔鏡下卵管切除術（ストリップ法）前後の卵巣機能と術後妊娠率」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
45	【第62回日本生殖医学会学術講演会・総会】2017/11/16-17 場所：海峡メッセ下関、ドリームシップ (一般演題) 「中隔子宮を伴う不育症に対する子宮鏡下子宮中隔切除術の有用性」（共著）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
46	【第62回日本生殖医学会学術講演会・総会】2017/11/16-17 場所：海峡メッセ下関、ドリームシップ (一般演題) 「卵巣機能低下不妊患者に対する経皮テストステロン剤の有用性の検討」【筆頭】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
47	【第62回日本生殖医学会学術講演会・総会】2017/11/16-17 場所：海峡メッセ下関、ドリームシップ (一般演題) 「当院における複式広汎子宮頸部摘出術後の妊娠についての検討」【共著】	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 「乳がんでのドセタキセル/シクロホスファミド（TC)療法による皮膚毒性に及ぼすデキサメタゾン投与量の影響」第27回日本医療薬学会年会（千葉県千葉市）2017.11.4（共著）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子

資料 12

海外学会･シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	29年4月1日～2017年4月5日 AACR Annual Meeting 2017 アメリカ合衆国ワシントンDC	プレシジョン･メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
2	29年9月8日～12日 European Society for Medical Oncology 2017 Congress スペイン･マドリード	外科治療･集学的診療コース	船越　太郎
3	29年11月27日～30日　第15回アジア移植学会参加　フィピリン･セブ	外科治療･集学的診療コース	日下部　治郎
4	29年9月24日～27日　18th Congress of the European Society for Organ Transplantation スペイン共和国･バルセロナ市	外科治療･集学的診療コース	玉木　一路
5	29年6月14日～17日　52th European society for surgical research オランダ共和国･アムステルダム市	外科治療･集学的診療コース	玉木　一路
6	30年3月7日～9日　ENETS conference　Barcelona(Spain)	外科治療･集学的診療コース	仲野　健三
7	2018/6/7-10, Joint Congress of The 6th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association & The 29th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 神奈川県横浜市	外科治療･集学的診療コース	仲野　健三
8	30年2月14日～17日、Digestive Disease & Surgery Institute Week 2018、アメリカ合衆国フォートローダーデール市	外科治療･集学的診療コース	西野　裕人
9	29年5月5-9日, ESTRO36, Vienna, Austria	医学物理士コース	平島　英明
10	29年9月15-17日, The 8th Japan-Korea Joint Meeting on Medical Physics, 大阪府	医学物理士コース	平島　英明
11	29年5月5-9日　ESTRO36(ヨーロッパ放射線腫瘍学会）オーストリア、ウィーン	希少がん･小児がんに対する放射線治療コース	小野　幸果
12	29年9月23日～29年9月29日、American Society of Radiation Oncology 59th Annual Meeting、アメリカ･サンディエゴ	希少がん･小児がんに対する放射線治療コース	小野　幸果
13	29年9月23日～29年9月29日、American Society of Radiation Oncology 59th Annual Meeting、アメリカ･サンディエゴ	希少がん･小児がんに対する放射線治療コース	藤井　康太
14	30年2月28日～3月3日　欧州放射線学会参加　オーストリア国ウィーン市	外科治療･集学的診療コース	徳永　幸史
15	29年5月5日～5月8日　Digestive Disease Week　Chicago	外科治療･集学的診療コース	戸田　怜
16	30年2月14日　5th Annual International Congress of Fluorescence Guided Surgery Florida	外科治療･集学的診療コース	戸田　怜
17	30年2月8日～10日　Genitourinary Cancers Symposium　アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ市	希少がん･小児がんに対する放射線治療コース	相澤　理人
18	30年1月11日～30年1月12日　2018 11th East Asian Forum of Nursing Scholars 韓国、ソウル	緩和ケアコース	加藤　慎太郎
19	29年11月11日～平成29年11月15日　第47回北米神経科学学会年会･ニューロサイエンス2017 アメリカ合衆国･ワシントンD.C.	がん専門薬剤師コース	小柳　円花

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2017年9月13-14日、77th World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (in Seoul)、韓国・ソウル	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史

【大阪医科大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	平成29年5月6日～9日 DDW2017 in Chicago アメリカ合衆国	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
2	平成29年9月7日～9日　SGI 2017　韓国仁川	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤

【京都薬科大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2018年3月12日～13日 平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」参加、米国	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子

資料 13

国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	29年9月28日　第76回日本癌学会学術総会　神奈川県横浜市	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	垣内　伸之
2	29年10月28日(土) ～29日（日） 第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 大阪府大阪市	リハビリテーションスタッフ コース	田畑　阿美
3	29年7月　日本臨床腫瘍学会　兵庫県神戸市	リハビリテーションスタッフ コース	華井　明子
4	29年10月　日本がんサポーティブケア学会　埼玉県さいたま市	リハビリテーションスタッフ コース	華井　明子
5	30年3月　日本がんリハビリテーション研究会　兵庫県神戸市	リハビリテーションスタッフ コース	華井　明子
6	29年4月14日～4月16日　第69回日本産科婦人科学会学術講演会　広島県広島市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
7	29年7月27日～7月29日　第59回日本婦人科腫瘍学会　熊本県熊本市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
8	29年9月28日～9月30日　第76回日本癌学会　神奈川県横浜市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
9	30年2月24日婦人科がんバイオマーカー研究会　福井県福井市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	北村　幸子
10	29年4月27日～29 日本外科学会定期学術集会　神奈川県横浜市	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
11	29年7月20日～22日 日本消化器外科学会　石川県金沢市	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
12	29年10月28日～29日 日本コンピュータ外科学会　愛知県名古屋市	外科治療・集学的診療コース	岡田　倫明
13	29年4月27日～29日 第117回日本外科学会定期学術集会　横浜	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
14	29年7月20日～22日 第72回日本消化器外科学会総会　金沢	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
15	29年6月8日～9日 第53回日本肝臓学会総会　広島	外科治療・集学的診療コース	日下部　治郎
16	29年7月20日～22日　第72回日本消化器外科学会総会　石川県　金沢市	外科治療・集学的診療コース	玉木　一路
17	29年7月27日～29日　第15回日本臨床腫瘍学会　兵庫県神戸市	外科治療・集学的診療コース	津田　萌
18	29年4月27日～29年4月29日第117回日本外科学会定期学術集会　神奈川県横浜市	外科治療・集学的診療コース	仲野　健三
19	29年9月2日　第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会　宮城県仙台市	外科治療・集学的診療コース	仲野　健三
20	29年7月6日～7日　第53回日本肝癌研究会　東京都新宿区	外科治療・集学的診療コース	西野　裕人
21	29年7月20日～22日　第72回日本消化器外科学会総会　石川県金沢市	外科治療・集学的診療コース	西野　裕人
22	29年4月27日～29日　第117回日本外科学会学術総会　横浜市	外科治療・集学的診療コース	萩原　健
23	29年7月27日～28日　第26回日本がん転移学会学術集会総会　大阪市	外科治療・集学的診療コース	萩原　健

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
24	29年9月28日～30日　第76回日本癌学会学術総会　横浜市	外科治療・集学的診療コース	萩原　健
25	29年12月7日～29年12月9日 第３１回日本内視鏡外科学会総会　京都市	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
26	29年12月6日　第１１回肝臓内視鏡外科研究会　京都市	外科治療・集学的診療コース	藤　浩明
27	29年4月13～16日　第113回日本医学物理学会学術大会　神奈川県	医学物理士コース	平島　英明
28	29年11月17～19日　日本放射線腫瘍学会第30回学術大会　京都府京都市	医学物理士コース	平島　英明
29	29年10月12日～15日　JDDW2017　福岡県博多市	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	小川　智
30	29年4月28日～29日　第117回日本外科学会総会　神奈川県横浜市	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	森本　智紀
31	29年12月8日～9日　第30回日本内視鏡外科学会総会　京都市	プレシジョン・メディシン がんゲノム医療コース	森本　智紀
32	29年4月13～16日　第69回日本産科婦人科学会学術講演会　広島市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	浮田　真沙世
33	29年7月27～29日　第59回日本婦科腫瘍学会学術講演会　熊本市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	浮田　真沙世
34	29年9月28～30日　第76回日本癌学会学術総会　横浜市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	浮田　真沙世
35	29年7月27日～29日　日本婦人科腫瘍学会　熊本県熊本市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	三瀬　有香
36	29年9月28日～30日　日本癌学会　埼玉県横浜市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	三瀬　有香
37	29年11月17-19日　JASTRO30(日本放射線腫瘍学会）大阪市	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	小野　幸果
38	29年11月17日～29年11月19日　第30回日本放射線腫瘍学会　大阪府大阪市	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	藤井　康太
39	29年9月28日～30日　日本癌学会学術総会　神奈川県横浜市	外科治療・集学的診療コース	田中　直
40	29年12月6日～9日　日本分子生物学会　兵庫県神戸市	外科治療・集学的診療コース	田中　直
41	29年9月14日～16日　日本磁気共鳴医学会大会　栃木県宇都宮市	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
42	29年6月10日　IVR学会関西地方会　大阪府大阪市	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
43	29年4月22～23日　日本核医学会春季大会　東京都	外科治療・集学的診療コース	徳永　幸史
44	29年4月27日～29日　第117回日本外科学会学術集会　横浜	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
45	29年7月6日～7日　第53回日本肝癌研究会　東京	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
46	29年7月20日～22日　第72回日本消化器外科学会総会　金沢	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
47	29年12月6日　第11回肝臓内視鏡外科研究会　京都	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
48	29年9月30日　第30回近畿内視鏡外科研究会　大阪	外科治療・集学的診療コース	戸田　怜
49	29年7月7日　第87回大腸癌研究会　三重県四日市市	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
50	29年7月20日～29年7月22日　第72回日本消化器外科学会総会　石川県金沢市	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
51	29年12月7日～29年12月9日　第30回日本内視鏡外科学会総会　京都府京都市	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
52	30年1月26日　第88回大腸癌研究会　東京都千代田区	外科治療・集学的診療コース	西崎　大輔
53	29年9月22日　第34回京都がん研究会　京都市	がん専門薬剤師コース	萩原　孝史
54	29年11月24日 第132回 日本薬理学会近畿部会、大阪 千里ライフサイエンスセンター	がん専門薬剤師コース	萩原　孝史
55	30年2月17日　がんプロコース会議　がんプロインテンシブコース　京都市	がん専門薬剤師コース	萩原　孝史
56	29年4月13～16日　第69回日本産科婦人科学会学術講演会　広島市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	水野　林
57	29年7月27～29日　第59回日本婦科腫瘍学会学術講演会　　熊本市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	水野　林
58	29年9月28～30日　第76回日本癌学会学術総会　横浜市	婦人科腫瘍における がんゲノム医療コース	水野　林
59	29年10月22日　日本泌尿器腫瘍第3回学術集会　東京都港区	希少がん・小児がんに対する 放射線治療コース	相澤　理人
60	29年7月20日　大腸癌研究会 三重県津市	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
61	29年12月7日～9日 日本内視鏡外科学会総会参加 京都府京都市	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
62	30年1月26日　大腸癌研究会参加 東京都千代田区	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
63	30年2月4日　大腸癌術後フォローアップ研究会参加 東京都中央区	外科治療・集学的診療コース	福井　雄大
64	29年4月4日～5日　第118回日本外科学会定期学術集会参加、東京都	外科治療・集学的診療コース	山本　健人
65	29年9月22日～29年9月24日　日本作業療法学会　東京都千代田区	リハビリテーションスタッフ コース	西田　百合香
66	30年2月25日　京都府作業療法学会　京都府京都市	リハビリテーションスタッフ コース	西田　百合香
67	29年9月23日～29年9月24日　日本TDM学会・学術大会　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	糸原　光太郎
68	29年11月29日　日本薬物動態学会第32回年会　東京都江戸川区	がん専門薬剤師コース	糸原　光太郎
69	30年2月3日～30年2月4日　近畿薬剤師合同学術大会2018　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	糸原　光太郎
70	29年8月24日～25日　生体機能と創薬シンポジウム2017　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
71	29年8月26日　次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
72	29年9月22日　第34回京都がん研究会　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
73	29年11月22日　第2回 2025年に向けた薬剤師業務研究会 in 京都　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
74	29年11月24日　第132回 日本薬理学会近畿部会　大阪府豊中市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
75	29年12月6日～9日　2017年度生命科学系学会合同年次大会　兵庫県神戸市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
76	30年2月17日　平成29年度がんプロコース会議及び第1回 地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成インテンシブコース　京都府京都市	がん専門薬剤師コース	小柳　円花
77	29年12月16日～29年12月17日　看護科学学会　宮城県仙台市	緩和ケアコース	加藤　慎太郎

【三重大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸　2017.7.27-29	腫瘍内科専門医養成コース	戸野泰孝
2	第79回日本血液学会学術集会、東京　2017.10.20-22	腫瘍内科専門医養成コース	景山祐紀
3	第79回日本血液学会学術集会、東京　2017.10.20-22	腫瘍内科専門医養成コース	片山春奈
4	第79回日本血液学会学術集会、東京　2017.10.20-22	腫瘍内科専門医養成コース	永春圭規
5	第79回日本血液学会学術集会、東京　2017.10.20-22	腫瘍内科専門医養成コース	澤木昭彦
6	29年9月9日～10日　日本乳癌学会中部地方会　長野県飯田市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
7	29年10月15日　東海外科学会　三重県津市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	木本真緒
8	29年3月2日～3日　日本腹部救急医学会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
9	29年7月13日～15日　日本乳癌学会　福岡県博多市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
10	29年8月4日～5日　乳癌最新情報カンファランス　京都府京都市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
11	29年10月15日　東海外科学会　三重県津市	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野真由子
12	第79回日本血液学会学術集会	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
13	第59回小児血液がん学会学術総会	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
14	第8回JSH国際シンポジウム	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	29年 9月28-30日、第76回日本癌学会総会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	PHAM　MINH NGOC

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
2	29年12月12-14日、日本免疫学会総会、宮城県仙台市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	PHAM　MINH NGOC
3	29年4月27-29日、第117回日本外科学会定期学術集会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
4	29年7月13-15日、第25回日本乳癌学会学術総会、福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	田中　彰恵
5	29年7月27-29日、第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、兵庫県神戸市	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
6	2017年9月28-30日、第76回日本癌学会学術総会、神奈川県横浜市	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
7	29年12月15日、滋賀医大シンポジウム、滋賀県大津市	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	青田　正子
8	29年4月27-29日、日本外科学会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	29年6月7-10日、日本肝胆膵外科学会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
10	29年7月1日、沖縄腹腔鏡下肝胆膵消化管手術研究会、沖縄県沖縄市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
11	29年7月14-15日、日本膵臓学会、京都府京都市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
12	29年7月20-22日、日本消化器外科学会、石川県金沢市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
13	29年8月25－26日、日本膵切研究会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
14	29年9月2日、神経内分泌腫瘍研究会、宮城県仙台市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
15	29年9月28日、日本胆道学会、山形県山形市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
16	29年9月30日、近畿内視鏡外科研究会、大阪府大阪市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
17	29年10月12－15日、JDDW、福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
18	29年10月7日、近畿膵疾患懇話会、大阪府大阪市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
19	29年7月27-29日、日本臨床腫瘍学会学術集会 シンポジウム、兵庫県神戸市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
20	29年11月3-5日、第27回日本医療薬学会年会 ランチョンセミナー、千葉県千葉市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
21	30年3月18日、がん薬物療法における薬理ゲノミクスセミナー、愛知県名古屋市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
22	H29年6月10-11日、平成29年度第1回薬物療法専門薬剤師集中講義、東京都渋谷区	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
23	29年6月24日、日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術大会シンポジウム、京都府京都市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
24	29年11月3-5日、日本医療薬学会シンポジウム、千葉県千葉市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
25	29年10月7-8日、平成29年度第2回薬物療法専門薬剤師集中講義、石川県金沢市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
26	30年1月13-14日　第20回病態栄養学会学術集会、京都府京都市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
27	30年2月1-3日　日本造血細胞移植学会学術集会、北海道札幌市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
28	30年2月22-23日　第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会、神奈川県横浜市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹

【大阪医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	4月13日(木)～16日(日)【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】広島県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
2	4月13日(木)～16日(日)【第69回日本産科婦人科学会学術講演会】広島県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
3	5月26日(金)～28日(日)【第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会)】大阪府	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
4	6月17日(土)、18日(日)【第136回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術集会】大阪府	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
5	7月16日(日)～18日(火)【第53回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会】神奈川県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
6	7月27日(木)～29日(土)【第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会】熊本	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
7	9月7日(木)～9日(土)【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】岡山県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
8	9月7日(木)～9日(土)【第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会】岡山県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
9	10月20日(金)～22日(日)【第55回日本癌治療学会学術集会】神奈川県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
10	10月20日(金)～22日(日)【第55回日本癌治療学会学術集会】神奈川県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
11	11月4日(土)～5日(日)【第32回日本女性医学学会学術集会】大阪府	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
12	11月16日(木)～17日(金)【第62回日本生殖医学会学術講演会・総会】山口県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	中村　真由美
13	6月29日（木）～7月1日（土）【腹部放射線学会】 北海道	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	田中　義和
14	5月11日　第93回日本消化器内視鏡学会総会：大阪府大阪市	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
15	7月15日　第48回日本膵臓学会大会：京都府京都市	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
16	10月13日 JDDW 2017：福岡県福岡市	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
17	11月18日第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会：京都府京都市	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤
18	6月29～7月1日　神経放射線ワークショップ　岐阜県関市	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央
19	9月9日～10日　日本医学放射線学会秋季臨床大会　愛媛県松山市	希少がんに関する放射線医療を担う人材育成コース	東山　央
20	日本産科婦人科学会：2017年4月13日～15日、広島県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
21	JSAWI2017：2017年9月1日～2日、兵庫県淡路市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成ｺｰｽ	寺田　信一
22	第137回近畿産科婦人科学会　腫瘍研究部会：2017年10月29日、和歌山県	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成ｺｰｽ	寺田　信一
23	第14回婦人科癌会議：2017年6月9日～10日、新潟県新発田市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成ｺｰｽ	寺田　信一
24	第30回日本内視鏡外科学会総会：2017年12月7日、京都府	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成ｺｰｽ	寺田　信一

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	29年5月27日～29年5月28日、第42回日本骨髄腫学会学術集会参加、東京都	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
2	29年7月27日～29年7月29日、第15回日本臨床腫瘍学会参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
3	29年10月20日～29年10月22日、第79回日本血液学会学術集会参加、東京都	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
4	29年11月3日～29年11月5日、第27回日本医療薬学会年会参加、千葉県千葉市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
5	29年6月14日～29年6月16日、第21回日本がん分子標的治療学会学術集会参加、福岡県福岡市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	若林　亮介

資料 14

平成29年度「5大学連携海外合同教育セミナー」

相手機関 :米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター
（The University of Texas MD Anderson Cancer Center）
訪　問　日:2018年3月12～13日

	大 学 名	氏　　名	所属・職名 専攻名・学年、がんプロコース名
	【教　員】		
1	京都大学	金井　雅史	医学研究科　特定准教授
	【学　生】		
1	京都大学	北村　幸子	医学研究科医学専攻 D3 婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
2	三重大学	長野　真由子	医学系研究科生命医科学専攻　D3 ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
3	滋賀医科大学	土手　賢史	医学系研究科医学専攻　D3 ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
4	大阪医科大学	由上　博喜	医学研究科医学専攻　D1 ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
5	京都薬科大学	角　　陽子	薬学研究科薬学専攻　D3 ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬学師養成コース

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	京都大学　医学研究科医学専攻	氏　名	北村　幸子
所属コース	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース		
研修等の名称	平成 29 年度（MDACC）海外合同教育セミナー		
研修等期間	平成 30 年 3 月 11　日から 3 月１４　日		
研修等目的	5 大学連携「海外合同教育セミナー」に参加し、研究発表およびがんに関する合同ディスカッションを実施。		
研修等内容	上記のセミナーへの参加し、院生自身の研究テーマに関して発表し、合同ディスカッション、及び施設の見学を実施する		
セミナー開催機関	米国テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター （The University of Texas MD Anderson Cancer Center）		
開催期間	平成 30 年 3 月 11 日から 3 月 14 日		
発表の場合題目	PDK2 inhibition has synergic effect with cisplatin targeting mitochondrial metabolism		

●研修等参加による成果

研修内容

5 大学より各一人、計 5 人での研修であった。うち 3 人は昨年度香港での研修にも参加しており、顔なじみであったこともあり終始なごやかな雰囲気の中で研修を行うことができた。

＃12 日（1 日目）

Dr 高橋(頭頸部外科)による施設案内：膨大な敷地の中に病院、研究所等、複数の建物が林立。病院内はフリースペースが広くとられていて職員患者問わずコーヒー片手に休息する人を多くみかけた。Cure はもちろん、care と予防(職員含む)を入れており、患者向けに開かれた情報提供体制(専門書の揃った図書室、患者同士の情報交換スペース等)が整っていた。また、それらを支えるマンパワーとしてボランティアが果たす役割も大きいとのことであった。

Dr 高橋(血液内科)：他学生のプレゼン後ディスカッション。プレゼンは全力で仕上げるべき。1 枚のスライドに必要な情報と不要な情報の取捨選択が重要というコメントあり。

Dr 藤本（Translational Molecular Pathology）単純な興味だけでなく資金調達ができるプロジェクトを立ち上げることが重要(資金がなければ研究はできない)。データ収集解析の自動化による客観性確保（数百枚の多染スライドを自動でデジタル取り込み、同一プログラムで解析できるシステム)、シングルセルからの PDX（時間はかかるができる症例はできる）など。いずれ解析の AI 化目指すが現時点では次期尚早というコメントが示唆的であった。

＃13（2 日目）

Dr 上野(乳腺外科)：他学生のプレゼン後ディスカッション（web カンファレンス）MD か PhD かどちらを目指すのか明らかにすべき。研究環境、研究テーマ選択の重要性、研究の臨床的意義を常に問うこと、臨床研究が医師主導である必要はないというコメントあり。

DrHuifang Linda Lu(内科)アレルギー科と自己免疫疾患をみる科が分かれているとのこと。近年癌免疫療法の台頭でいわゆる化学療法に伴うアレルギー反応と免疫療法の副作用をみられる医師への需要が高まっているという話は興味深かった。プレゼンテーションを担当させていただき、論文作成を急ぐようコメントをいただいた。

Mrs Anna Wu：薬剤部門の見学、病院勤務をしていても薬品の院内フローを気にすることはなかったので興味深かった。

全体を通じて、研修効果を上げるためには自身の英語スキルをもっと上達すべきであることを痛感した。研究内容のプレゼンが 1 対 1 であり、プレゼン担当者は集中してコメントがえられる利点があった。一方で担当外の学生も研究内容そのものについて積極的にディスカッションに参加できればよかったと反省している。

最後になりましたが、引率いただいた金井先生をはじめ、事務局の河野様、MDACC の先生方にはご多用にも関わらず、大変お世話になりました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻	氏　名	長野　真由子
所属コース	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース		
研修等の名称	平成 29 年度（MDACC）海外合同教育セミナー		
研修等期間	平成 30 年 3 月 12 日から 3 月 13 日		
研修等目的	5 大学連携「海外合同教育セミナー」に参加し、研究発表およびがんに関する合同ディスカッションを実施。		
研修等内容	上記のセミナーへ参加し、院生自身の研究テーマに関して発表し、合同ディスカッション、及び施設の見学を実施する		
セミナー開催機関	米国テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター （The University of Texas MD Anderson Cancer Center）		
開催期間	平成 30 年 3 月 12 日から 3 月 13 日		
発表の場合題目	Association of TILs with clinicopathological features of breast cancer		

●研修等参加による成果

この度は海外合同教育セミナーに参加させていただき、誠にありがとうございました。大変貴重な機会な上に初めてのアメリカでしたので、とても楽しみな気持ちと少しの緊張が入り混じって当日を迎えました。成田空港で引率の金井先生、参加者の先生方と顔合わせをし、ヒューストン行の飛行機に乗りました。ヒューストンと日本の間には時差が 14 時間 (この時期はサマータイム) あり、11 日 11 時発の飛行機で半日以上のフライトでしたが、現地到着時間は同日 9 時という少し得した感覚を覚えました。初日は終日フリーでしたので、ヒューストン自然博物館を訪れ、夜は美味しいトルコ料理・ワインをいただきながら先生方と楽しい夜を過ごしました。

そして迎えた研修当日は雲ひとつない快晴で、高層ビル群 (病院) が目に眩しく映りました。MD アンダーソンがんセンター周囲は街全体が病院の集合体となっており、施設の規模の大きさと人の多さに衝撃を受けました。近接した建物間は sky bridge（約 500m!）を歩いたり、離れた建物間はバスで移動しました。main building には MD アンダーソンの歴史、現在、未来が示されたスペースがあり、中でも、急速かつ劇的に死亡率を下げることを目的とし、研究を患者利益に直結させる moon shots program に大変感銘を受けました。

研究施設も見学させていただきましたが、施設内はとても広くたくさんの最新機器が揃っており、ここから最新の研究が発信されていくのだと思うととても気持ちが高揚しました。また、今回の研究発表・ディスカッションに際して改めて英語の準備したことも身になりましたし、世界で御活躍されている先生方から、研究の新たな視点や今後の方向性、改善点など直接御指導をいただけて大変な刺激になりました。今後に生かしてより良い研究ができるよう努力いたします。また今回拝聴させていただきました研究はいずれも新鮮で、内容が多岐に渡るのは勿論のこと、視点もそれぞれユニークで、分野は異なりますが参考になることばかりで大変有意義でした。そして、近い学年の先生方が様々な研究をされ、成果を出されていることが大変励みになりました。

今回参加者が少人数かつお人柄も素晴らしい先生方ばかりで、3 日間という短い期間でしたが、一人一人とたくさんお話しすることができました。近いうちにまたお会いできることを願っております。

最後になりましたが、研修の実施に際しご尽力をいただきました事務局の皆様、引率やご配慮をくださいました金井雅史先生、御指導くださいました MD アンダーソンがんセンターの先生方、そしてこの研修を共有していただきました参加者の先生方に深く御礼申し上げます。今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	滋賀医科大学　医学系研究科医学専攻 D3	氏　名	土手 賢史
所属コース	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース		
研修等の名称	平成 29 年度（MDACC）海外合同教育セミナー		
研修等期間	平成 30 年 3 月　日から 3 月　日		
研修等目的	5 大学連携「海外合同教育セミナー」に参加し、研究発表およびがんに関する合同ディスカッションを実施。		
研修等内容	上記のセミナーへの参加し、院生自身の研究テーマに関して発表し、合同ディスカッション、及び施設の見学を実施する		
セミナー開催機関	米国テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター （The University of Texas MD Anderson Cancer Center）		
開催期間	平成 30 年 3 月 12 日から 3 月 13 日		
発表の場合題目	Oral mucositis induced by anti-EGFR therapy combined with 5-fluorouracil: the difference between panitumumab and cetuximab		

●研修等参加による成果

世界有数のがんセンターである、MD アンダーソンがんセンター（MDACC）を 2 日間視察した。施設規模がとにかく大きく、患者が寛ぐことができるよう様々な配慮（スペースを広くとる、カフェテリアが多数ある、ボランティアがピアノ演奏している等）がなされており、自身のがんについて自己学習できるよう患者用図書館（蔵書には専門書も多かった）があったこと、アピアランスセンターが設けられていたことなどが驚きであった。薬剤部門の見学も行ったが、日本と比較して行っている業務に大差はないように感じた。ただし、抗がん薬の調製を非薬剤師が行っており（テクニシャンと呼ぶ)、非薬剤師が調製するがゆえに起きてくるミスを最小化するための工夫がなされていた。セミナーは、各大学院生が MDACC の MD に対して研究テーマのプレゼンテーションをした。特に印象的であったのは、上野直人医師とのやり取りのなかで、「臨床家は、臨床的意義がある研究をしなければならない」と強調されていたことだった。研究では、「X と Y に関連性が認められた」等、報告されることが少なくないが、その関連性に臨床的意義はあるのか考えて研究を意義のあるものに発展させなければならないと繰り返し述べられた。私は、支持療法を専門としている医師（Dr. Huifang Lu, Associate Professor of Internal Medicine）に対して上記題目でプレゼンテーションを行った。なれない英語での発表であったが「面白い研究内容だ、ASCO で発表したら？」とお褒めの言葉を頂けた。英語で討議を行う貴重な経験をすることができた。この経験を活かして、現在の研究ならびに今後の研究をより発展させたいと思う。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	大阪医科大学・消化器内科	氏　名	由上　博喜
所属コース	第二内科学教室		
研修等の名称	平成29年度（MDACC）海外合同教育セミナー		
研修等期間	平成30年3月日11から3月15日		
研修等目的	5大学連携「海外合同教育セミナー」に参加し、研究発表およびがんに関する合同ディスカッションを実施。		
研修等内容	上記のセミナーへの参加し、院生自身の研究テーマに関して発表し、合同ディスカッション、及び施設の見学を実施する		
セミナー開催機関	米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター （The University of Texas MD Anderson Cancer Center）		
開催期間	平成30年3月12日から3月13日		
発表の場合題目	Development of new treatment for cancer with delivery system of adipose derived stem cells.		

●研修等参加による成果

2日間のMDアンダーソンがんセンターの研修に参加し、私自身が研究しているドラッグデリバリーシステムについての研究経過報告を行いました。MDアンダーソンに勤めている医師から今後の研究についてのアドバイスをもらい、今後の参考にしていくつもりです。

また、参加者は医師、薬剤師のがん領域の研究をしている大学院生でしたが、職種も違いだけでなく、医師であっても専門分野が違う方々ばかりで、その方の研究発表は専門分野が違うからこそ、今まで私にはなかった視点や知識であり、学ぶところが多かったです。同じ大学院生であり、同世代の研究者の発表は非常にすばらしいもので、私自身、今後、さらに研究成果を出すことが出来るように努力していこうと思い、大きな刺激にもなりました。

MDアンダーソンがんセンターでは私たち大学院生の研究経過報告だけではなく、MDアンダーソンがんセンターで勤務されている日本人医師の研究内容や仕事内容、またMDアンダーソンがんセンターをはじめとしたアメリカの医療体制について、お話をお伺いすることもできました。アメリカで仕事をしたいと考え始めたきっかけなども教えて頂いたのですが、そのきっかけは私たちが考えていたものより、身近なもので、非常に驚きました。ただ、きっかけが身近なものであっても、そこからアメリカで成果を上げて、何年間も世界トップレベルの病院、研究室で勤務をされるにいたる経緯は、努力や工夫など、並々ならぬものがあり、感銘を受けました。

MDアンダーソンがんセンターの医療体制として、まず初めに驚いたのは、スタッフの多さです。約2万人のスタッフが勤務をしており、またそれ以外にも多数のボランティアスタッフも病院業務に貢献しています。個々の業務内容を細分化することで、それぞれの領域のプロフェッショナルが、医療を提供していました。また、医師以外の職種の裁量権も、日本とは違いました。日本では、外来で化学療法を行う場合、薬剤の投与前に医師の診察を受け、医師の許可のもと薬剤の投与を行います。たとえ病状が落ち着いており、これまで何十回と投与をされてきた薬剤であっても、その手順は踏まなければなりません。しかし、アメリカでは病状が落ち着いていれば、認定を受けた看護師が薬剤の投与の許可をします。また、化学療法の薬剤の大きな変更がない場合、副作用のマネージメントの範囲でなら薬剤師が処方をすることもあるそうです。日本人のなかで常識として染みついた考え方などもあり、こういった制度をすぐに取り入れなければならないとは思いませんが、意識が高く医療面において知識が深い看護師や薬剤師の裁量権が拡大することは、医療の質の向上にもつながるのではないかと思いました。

今回の研修では、大学院生としての研究について非常に学ぶことが多いだけではなく、医師として日本とアメリカの医療について考える大きな機会にもなりました。今後、研究者として医師として、よりよい医療が患者に届くように努力していきたいと思います。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	京都薬科大学薬学研究科薬学専攻	氏　名	角　陽子
所属コース	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース		

研修等の名称	平成 29 年度（MDACC）海外合同教育セミナー
研修等期間	平成 30 年 3 月 11 日から 3 月 15 日
研修等目的	5 大学連携「海外合同教育セミナー」に参加し、研究発表およびがんに関する合同ディスカッションを実施。
研修等内容	上記のセミナーへの参加し、院生自身の研究テーマに関して発表し、合同ディスカッション、及び施設の見学を実施する
セミナー開催機関	米国テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター （The University of Texas MD Anderson Cancer Center）
開催期間	平成 30 年 3 月 12 日から 3 月 13 日
発表の場合題目	The planning of best therapy based monitoring Lenlidomide blood concentration

●研修等参加による成果

私の研究テーマが血液内科疾患であることから、MDACC にて血液内科疾患である白血病を専門に研究されてる Dr.Takahashi の前で、研究内容を発表させていただきました。スライド 1 枚ずつ丁寧に確認いただき、細かなアドバイスをいただくことができました。Figure でのわかりにくい点や、文字が多く見づらいため、聴講者が視覚的にわかりやすい形にするようなど発表の一般的な注意点から、評価する際にバックグラウンドを揃える重要性など研究におけるアドバイスもいただくことができました。いただいたアドバイスを今後の研究や発表の際に生かしたいとおもいます。また、話し方も英語での発表であったこともあるのですが、抑揚がないことも指摘されました。英語での発表も今後あるとおもいますので、ネイティブの方にも聞き取りやすく発表できるよう、話し方も練習していきたいと思いました。私以外の参加者は、乳がんの研究をされておられる Dr.Ueno や、アレルギーを専門にされておられ、副作用の研究をされておられる dr.Huifang Lu にそれぞれの研究内容を発表されていました。Dr.Ueno はラスベガスに出張中の中 web カンファレンスでのディスカッションとなりました。Dr.Ueno の話の中に、治験の主導者は医師である必要がなくテーマによっては、薬剤師も主導になってもよいとの言葉がありました。副作用マネジメントなどにおいては薬剤師も存在感をだしていくべきと言っていただき、薬剤師として研究を深めて、より治療の最適化に貢献していければと励みになりました。また、患者指導では薬剤師に重きがある面もありますが、医師の立場や、看護師の立場からそれぞれ異なるアプローチの方法があるのですべての職種がそれぞれの役割を果たすことがチーム医療であるとも話しておられ、私も薬剤師としてより他職種と差別化した患者への関わりを心掛け、医療従事者としての責任を果たしていきたいと思いました。研究テーマを選ぶ際も、いろいろと興味を持って手を出すのではなく、しっかりと論理を組み立てて研究をする必要があることが重要であるとのことでした。興味があるといって研究してもポスター発表はできても論文にするのは難しいそうです。アメリカでは研究資金は寄付に頼る面が多いようで、研究テーマも、多くの患者に恩恵がもたらされるかそうではないかの見極めが大事とされており、希少疾患では大きな寄付を集めることも難しいようです。そのような点で reserch をするかしないかの意思決定が、日本と違いアメリカでははっきりしているとのことでした。Dr.Lu の話の中に薬剤アレルギーについての内容があったのですが、我々も日常的に経験することのあるペニシリンアレルギーは、多くの場合は、ペニシリン系薬剤の使用が可能な場合が多いとのことでしたが、おそらく日本ではアレルギー歴のある薬剤を再度使用することあり得ないことと考えられ、アメリカとの国民性の違いを目の当たりにしました。

病理医の dr.Fujimoto の laboratory も見学させていただきました。AI を取り入れた手技もあり、最先端の方法が行われていると実感できました。

薬剤科の見学も今回スケジュールに入れていただき大変うれしかったです。薬剤の保管庫や、病棟などでのサテライト薬局も実際に行って見学させていただけました。緊急にも対応できる体制が整っていたり、薬剤によってチェックカードを使い分けされておりミスを未然に防ぐ働きもされていました。海外からの研究者や職員も多いようですが日本の薬剤師はいないようでした。日本人の薬剤師もぜひ MDACC に携わってほしいと思いました。

評　価　結　果　表

1. 各項目評価

※　採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達　成　目　標　（評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3
【教育プログラムコース】					
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	A	D	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	B
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	A	A	A
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	A	A	B
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	A	A	A
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	A	A	A
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数	A	A	A
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	B
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	A	A	A
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	A	A	A
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	B	B	B
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	A	A	A
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	A	A	B
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	A	A	B
【シンポジウムやセミナー等の実施】					
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	A	A	A
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	A	A	A
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	B
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】					
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	A	A	A
	20	国際交流プログラムの実施数	A	A	A
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	A	B	B
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】					
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	A
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	A	A	A
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	A	A	B
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	A	B	B

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達 成 目 標 （評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】					
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	A	A	B
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	B
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	A	A	B
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	B	A	B
	30	連携5大学 コース履修者の e－learning 受講登録率	B	D	C
	31	新たな e－learning 講義科目の提供の取組みについて	A	C	C
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	A	A	A
【事業の普及】					
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	A	A	A
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	A	A	A
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	A	A	B
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	B	A	B
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	A	A	A
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

2. 講 評

講 評 （ 評価 1 ）
○今年度は年度途中からの開学であるため、入学者およびその活動は例年より少ないことが予測されるため、その中では健闘しているように見受けられる。 ○前年までと同様に非常にactiveなプログラムが組まれており、大変忙しい中trainerもtraineeも頑張って教育そして勉学／研究に励んでおられることが伺われる。 ○プログラムの内容が多岐にわたっており、また随所に先駆的な研究が行われている点などから、日本を代表するがんプロの一つであることは、疑いを入れない。 ○実際に異なる大学のがんプロ生同志が、お互いの活動をOJTで触れ合える環境が、さらに彼らのmotivationを高めると考えられるため、がんプロ生の内に、主幹大学への短期留学もしくは見学も業務に支障を与えない範囲において実現できれば、連携大学のがんプロ生のmotivationもさらに高まるように考えられる。

講 評 （ 評価 2 ）
本事業は、京都大学を主幹とする5大学がお互いに連携協力しながら、高度がん医療を先導するがん医療人の養成を行う取組である。初年度は年度途中からのスタートだったが、事業はほぼ順調に遂行されており、39項目のうち33項目をA評価とした。大学院生数は全体で26名と受入目標人数は下回ったが、来年度以降の受入を期待したい。地域医療機関や各種団体との連携、社会への情報発信、事業の普及の項目については連携大学が積極的に取り組んでおり評価できる。e-learning受講登録率は京都薬科大学以外は記載がされておらずD評価とした。

講 評 （ 評価 3 ）
主幹校のリーダーシップのもと、質の高いがん医療人養成事業が行われています。その取り組みは評価されますが、コンソーシアム内における不均衡の改善が望まれる活動も散見されます(8,11,14,15,18,21)。コンソーシアムにおける連携大学間の人材交流を更に活性化することが、本事業の更なる充実につながると考えられます。また、e-learningに関しては、現在取り組んでいる課題の再点検が望まれます。 総じて、高いレベルでの運営が行われていると評価いたします。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科　がんプロフェッショナル養成プラン事務局
〒606-8501　京都市左京区吉田近衛町
TEL　075-753-4654　FAX　075-751-2180
E-mail　060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp